八尾市文化財調査報告49
平成15年度国庫補助事業

八尾市内遺跡平成15年度発掘調査報告書

2004年3月

八尾市教育委員会

八尾市内遺跡平成15年度発掘調査報告書　正誤表		
頁･行	誤	正
１頁　２行	発掘調査	遺構確認調査
３頁　15･19･21･25･30行	古墳時代中期	飛鳥時代
４頁　３行	古墳時代中期後葉	飛鳥時代
４頁　８～１０行	また、（中略）示唆される。	抹消
40頁　図版10	中田遺跡(2003-315)	東郷遺跡(2003-315)
40頁　図版10	27東郷203-203	27東郷2003-315
41頁　図版11	31西郡廃寺2003-367	31西郡廃寺2002-367
42頁　図版12	水越遺跡(2003-343)	水越遺跡(2002-343)
44頁　図版14	４東郷遺跡2003-426	４東郷遺跡2002-426
報告書抄録	北線	北緯
報告書抄録	東弓削（ひがしゆげ）｜八尾市都塚（やおしみやこづか）	東弓削（ひがしゆげ）｜八尾市大字都塚（やおしおおあざみやこづか）
報告書抄録	４｜東郷遺跡｜集落｜古墳時代中期｜	４｜東郷遺跡｜集落｜飛鳥時代｜

はじめに

八尾市は、大阪府のほぼ中央部に位置し、生駒山地の山麓部から大阪平野の東部にかけて市域を有しております。古くは、河内湖、河内潟に面し、旧大和川をはじめとする多くの河川によって、肥沃な平野が形成されてきました。旧石器時代から近世に至るまで先人達が残した多くの遺構や遺物が残されており、全国的にも有数な遺跡の宝庫と呼べる地域であります。

本書は、当教育委員会が平成15年度に(財)八尾市文化財調査研究会に委託して実施した市内の個人住宅建設や民間の各種事業の工事等に伴う遺構確認調査の成果を収めております。

今後、市内の貴重な埋蔵文化財が、市民の方々をはじめ、多くの人々に親しまれるよう、保存・活用されていくことが重要な課題となるでしょう。本書が、その役割の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査に際し、ご理解とご協力を賜りました関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成16年３月

八尾市教育委員会

教育長　森　　卓

例　　言

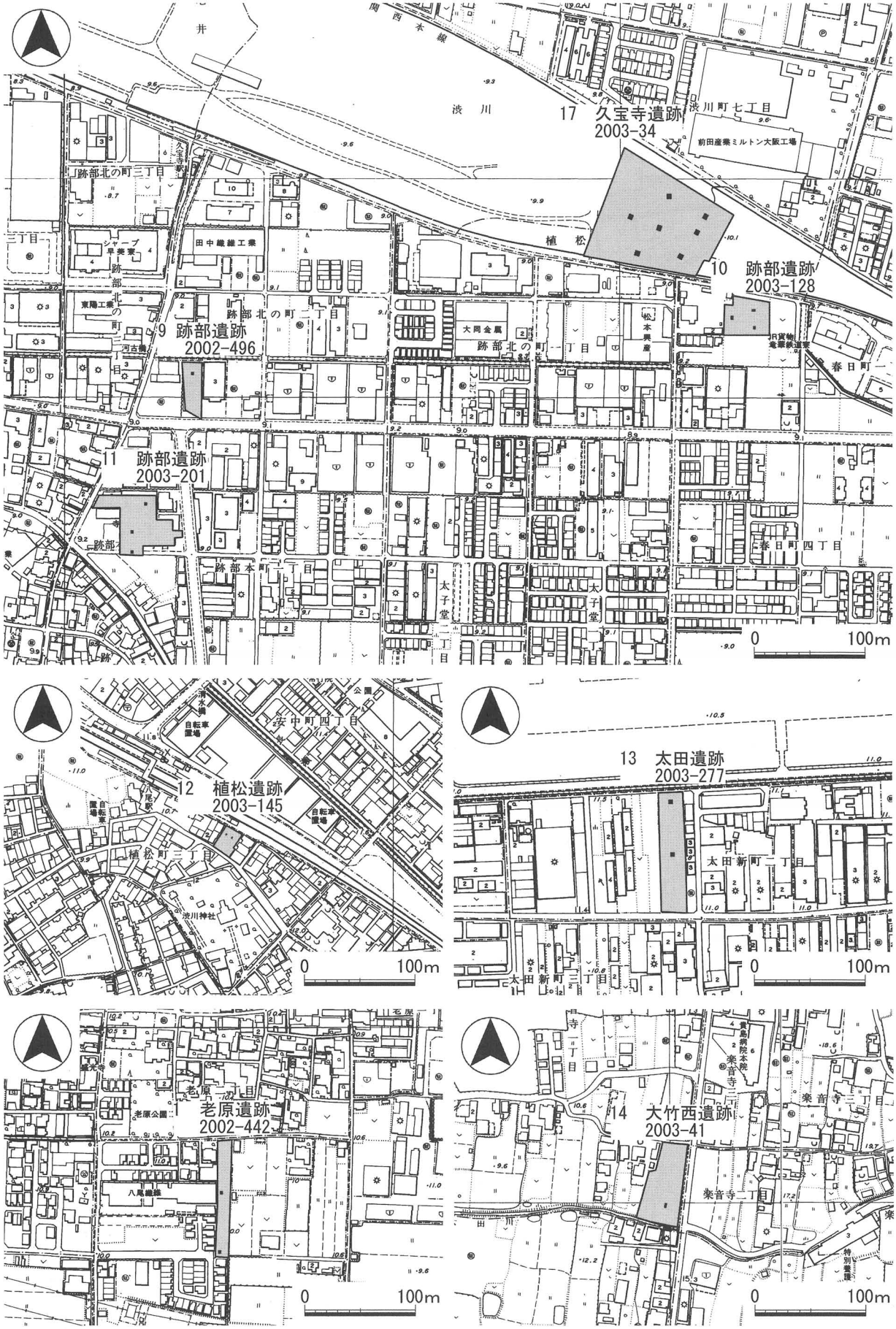
１．本書は、平成15年度の国庫補助事業（市内遺跡）として、八尾市内で実施した発掘調査の報告書である。平成14年度実施分についても一部掲載している。
２．これらの調査は、八尾市教育委員会が(財)八尾市文化財調査研究会に委託して実施したものである。
３．本書の作成にあたっては、(財)八尾市文化財調査研究会の各調査担当者（岡田清一、高萩千秋、成海佳子、西村公助、樋口　薫）が執筆を行い、執筆分担は各報告の文末に記した。
４．本書の編集は、八尾市教育委員会生涯学習部文化財課において行った。

本文目次

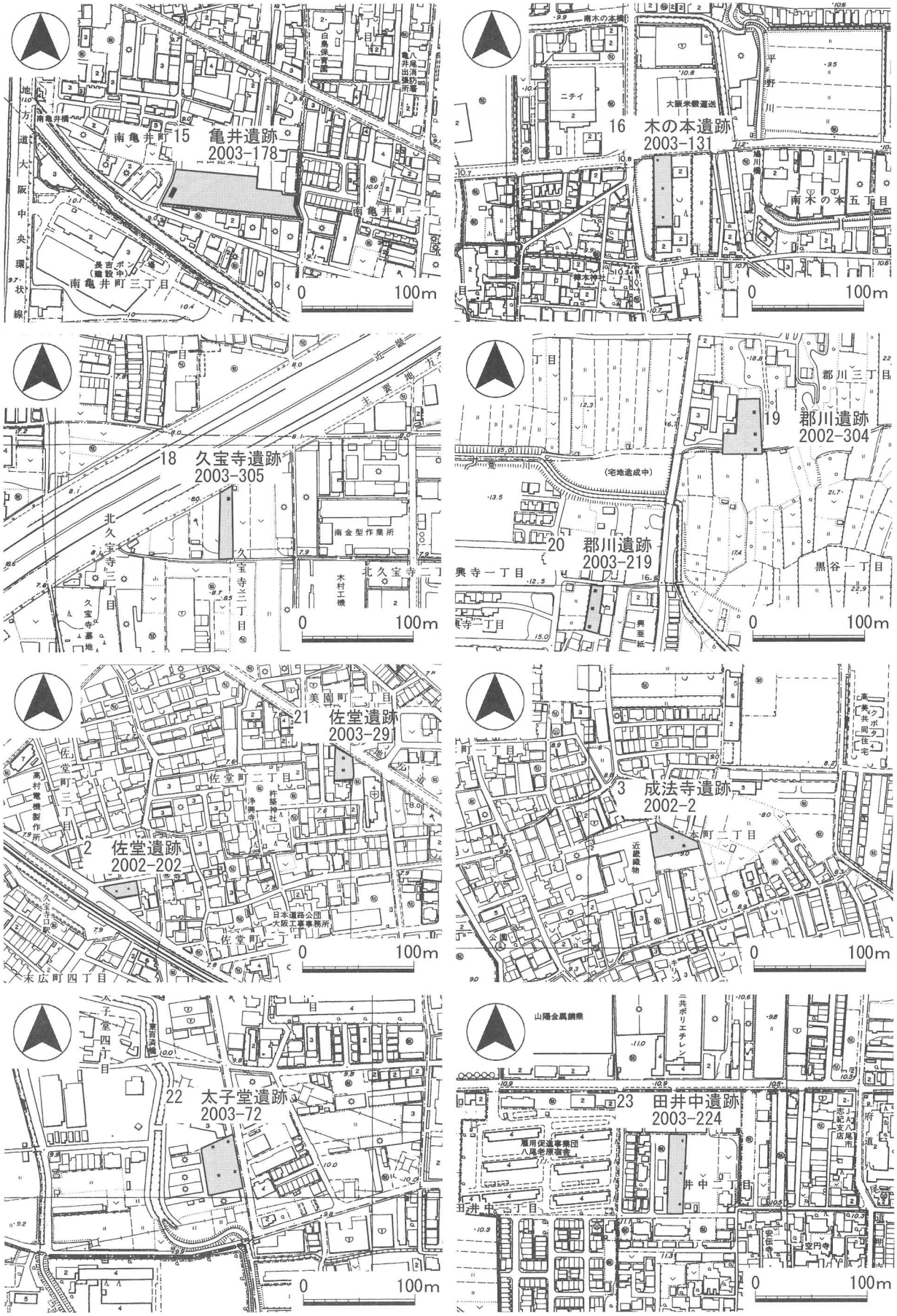
調査地位置図Ⅰ～Ⅳ
1　老原遺跡(2002－442)の調査 …… 1
2　佐堂遺跡(2002－202)の調査 …… 1
3　成法寺遺跡(2002－2)の調査 …… 2
4　東郷遺跡(2002－426)の調査 …… 3
5　東郷遺跡(2002－345)の調査 …… 4
6　東郷遺跡(2002－479)の調査 …… 5
7　中田遺跡(2002－428)の調査 …… 6
8　美園遺跡(2002－424)の調査 …… 7
9　跡部遺跡(2002－496)の調査 …… 7
10　跡部遺跡(2003－128)の調査 …… 8
11　跡部遺跡(2003－201)の調査 …… 9
12　植松遺跡(2003－145)の調査 …… 9
13　太田遺跡(2003－277)の調査 ……10
14　大竹西遺跡(2003－41)の調査……10
15　亀井遺跡(2003－178)の調査 ……11
16　木の本遺跡(2003－131)の調査 ……15
17　久宝寺遺跡(2003－34)の調査……16
18　久宝寺遺跡(2003－305)の調査 ……17
19　郡川遺跡(2002－304)の調査 ……17
20　郡川遺跡(2003－219)の調査 ……18
21　佐堂遺跡(2003－291)の調査 ……19
22　太子堂遺跡(2003－72)の調査……19
23　田井中遺跡(2003－224)の調査 ……20
24　東郷遺跡(2003－50)の調査……21
25　東郷遺跡(2003－40)の調査……22
26　東郷遺跡(2003－234)の調査 ……23
27　東郷遺跡(2003－315)の調査 ……23
28　中田遺跡(2003－203)の調査 ……24
29　中田遺跡(2003－261)の調査 ……24
30　西郡廃寺遺跡(2003－89)の調査……25
31　西郡廃寺遺跡(2002－367)の調査 ……25
32　東弓削遺跡(2003－127)の調査 ……26
33　東弓削遺跡(2003－150)の調査 ……27
34　東弓削遺跡(2003－239)の調査 ……28
35　水越遺跡(2002－343)の調査 ……28
36　水越遺跡(2003－233)の調査 ……29
37　矢作遺跡(2003－270)の調査 ……29
38　弓削遺跡(2003－195)の調査 ……30

図版目次

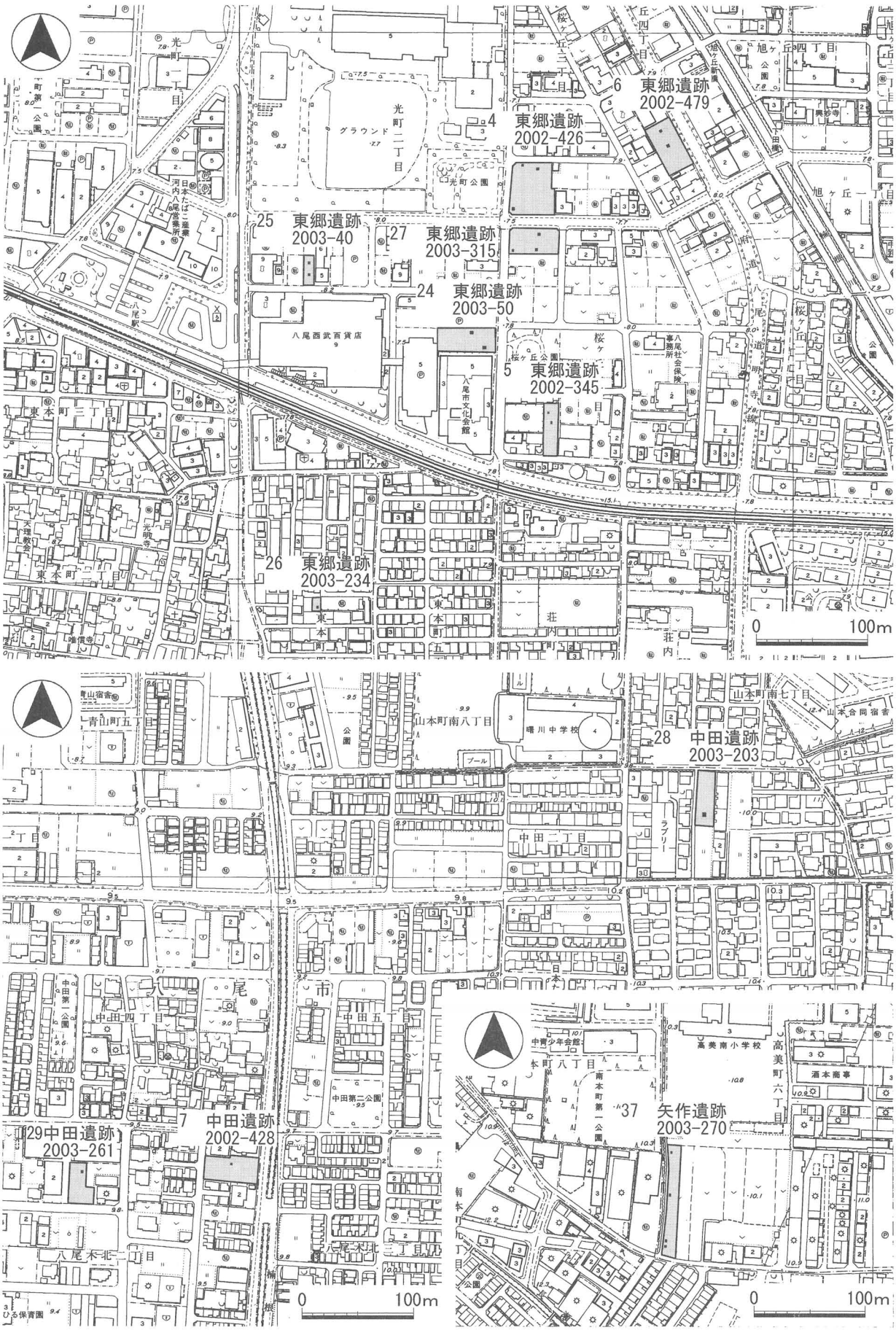
図版1　老原遺跡(2002－442)の調査
　　佐堂遺跡(2002－202)の調査
　　成法寺遺跡(2002－2)の調査
　　東郷遺跡(2002－426)の調査
図版2　東郷遺跡(2002－426)の調査
　　東郷遺跡(2002－345)の調査
　　東郷遺跡(2002－479)の調査
図版3　東郷遺跡(2002－479)の調査
　　中田遺跡(2002－428)の調査
　　美園遺跡(2002－424)の調査
　　跡部遺跡(2002－496)の調査
図版4　跡部遺跡(2003－128)の調査
　　跡部遺跡(2003－201)の調査
　　植松遺跡(2003－145)の調査
図版5　太田遺跡(2003－277)の調査
　　大竹西遺跡(2003－41)の調査
　　亀井遺跡(2003－178)の調査
図版6　亀井遺跡(2003－178)の調査
　　木の本遺跡(2003－131)の調査
　　久宝寺遺跡(2003－34)の調査
図版7　久宝寺遺跡(2003－34)の調査
　　久宝寺遺跡(2003－305)の調査
　　郡川遺跡(2002－304)の調査
　　郡川遺跡(2003－219)の調査
図版8　佐堂遺跡(2003－291)の調査
　　太子堂遺跡(2003－72)の調査
　　田井中遺跡(2003－224)の調査
図版9　東郷遺跡(2003－50)の調査
　　東郷遺跡(2003－40)の調査
図版10　東郷遺跡(2003－234)の調査
　　東郷遺跡(2003－315)の調査
　　中田遺跡(2003－203)の調査
　　中田遺跡(2003－261)の調査
図版11　西郡廃寺遺跡(2003－89)の調査
　　西郡廃寺遺跡(2002－367)の調査
　　東弓削遺跡(2003－127)の調査
図版12　東弓削遺跡(2003－150)の調査
　　東弓削遺跡(2003－239)の調査
　　水越遺跡(2002－343)の調査
図版13　水越遺跡(2003－233)の調査
　　矢作遺跡(2003－270)の調査
　　弓削遺跡(2003－195)の調査
図版14　東郷遺跡(2002－426)の調査
　　跡部遺跡(2003－128)の調査
　　亀井遺跡(2003－178)の調査



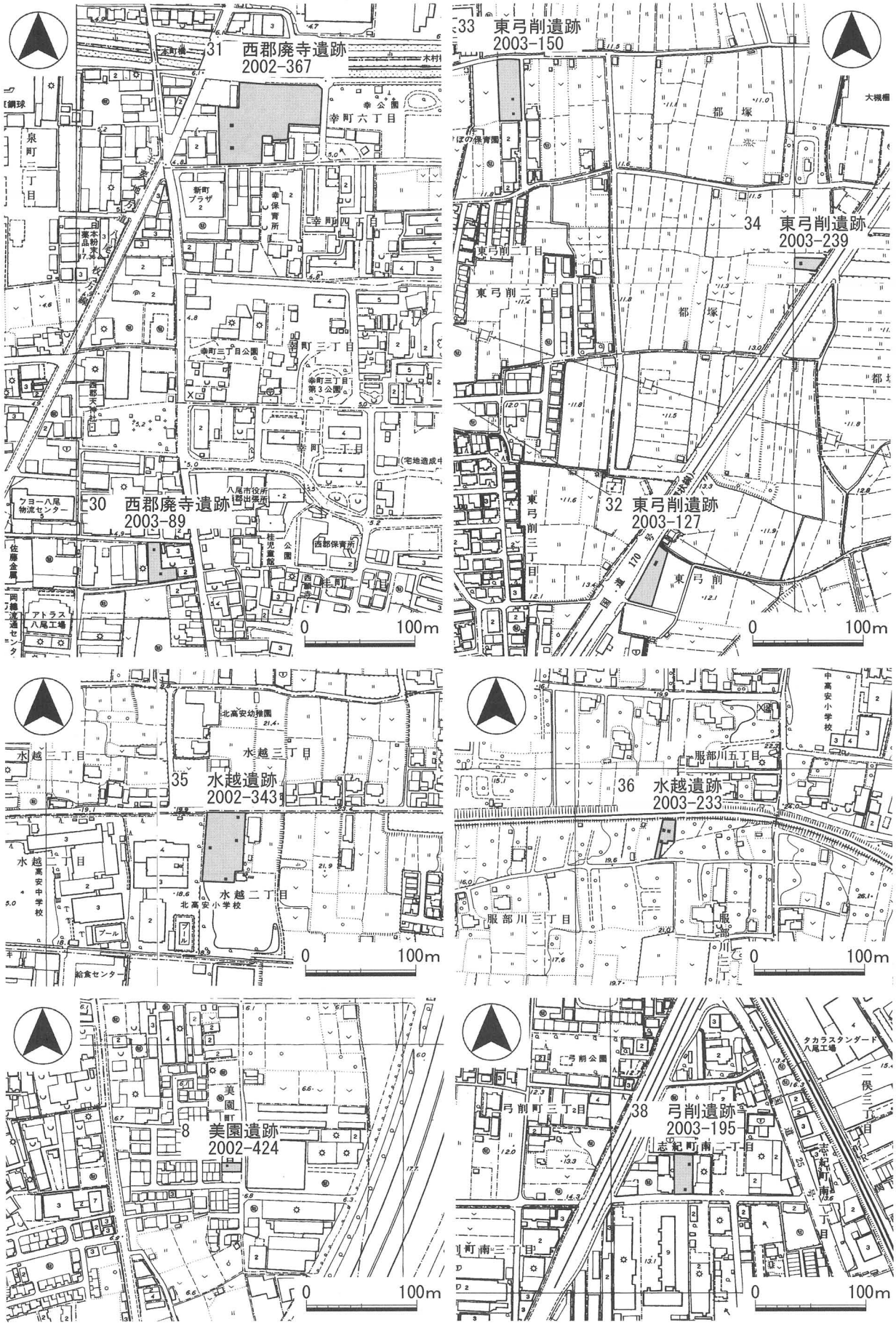
第１図　調査地位置図Ⅰ（Ｓ＝1/5000）



第２図　調査地位置図Ⅱ（Ｓ＝1/5000）



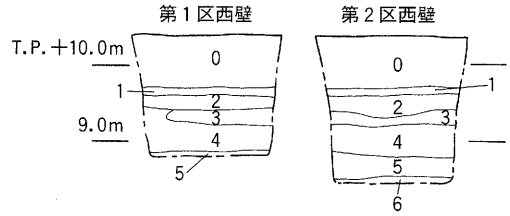
第３図　調査地位置図Ⅲ（Ｓ＝1/5000）



第４図　調査地位置図Ⅳ（Ｓ＝1/5000）

1　老原遺跡(2002－442)の調査

1．調査名：分譲住宅建設に伴う発掘調査
2．調査地：八尾市老原３丁目12番１の一部
3．調査期間：平成15年２月18日
4．調査方法：分譲住宅建設予定地内に、２ｍ四方の調査区を２箇所(北部を第１区、南部を第２区)設定した。掘削深度は現地表(T.P.＋10.4ｍ前後)から約２ｍまでの工事規模を対象とする。

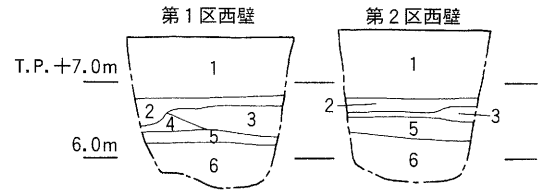


第５図　地層断面図(Ｓ＝1/100)

5．調査概要：【層序】第０層－現地表(T.P.＋10.4ｍ前後)から約0.7ｍまでは既存の宅地造成に伴う盛土、第１層－5G2/1緑黒色シルト(近・現代の作土層)、第２層－オリーブ灰色砂質シルト(第１区では、本層から「タタキメ」を有する時期不明の土師質の土器片が１点出土した)、第３層－N5/0灰色細粒砂(氾濫性による水成層)、第４層－10GY4/1暗緑灰色シルト、第５層－10GY7/1明緑灰色砂質シルト～極細粒砂(氾濫性による水成層で、湧水が著しい)、第６層－7.5YR7/3にぶい橙色シルト。
6．まとめ：周辺における既往の調査成果を見ると、平安時代後期～室町時代にかけての居住域に関連する遺構・遺物が顕著に検出されているが、本調査地では遺構は確認されず、遺物も皆無に等しい。今回の調査区の堆積層を概観すると、第１区では氾濫性の水成層、第２区では第７～９層に水田を示唆するような攪拌が見られる。これらのことから、既往の調査で見つかっている居住域は当地までは広がらず、当地は生産域であった可能性が高い。　(岡田清一)

2　佐堂遺跡(2002－202)の調査

1．調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査
2．調査地：八尾市佐堂町３丁目62の一部
3．調査期間：平成15年２月25日
4．調査方法：建物基礎部分に２箇所（規模2.0×2.0m）の調査区を設定し調査を行った。北側を第１区、南側を第２区と呼称する。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値（調査地の南側道路上T.P.＋7.9m）を使用した。



第６図　地層断面図(Ｓ＝1/100)

5．調査概要：【第１区・第２区】現地表下約2.0ｍまでに６層の堆積を確認した。１層は盛土。２層は10Y6/1灰色粗粒砂の流水堆積と思われる。３層は10YR5/2灰黄褐色細粒シルト混粘土でマンガン斑を含み、粘土のグロックが混入している。第１区の３層からは土師器の破片が、第２区の３層からは瓦器の破片が少量出土した。４層は10YR5/1褐灰色細粒シルト質粘土で炭化物を少量含む。第１区４層からは瓦器椀の破片が出土した。５層は10BG4/1暗青灰色粘土質細粒シルト、６層は5G4/1暗緑灰色粘土質細粒シルトである。
6．まとめ：３層および４層内には土師器および瓦器の破片が含まれていたが、遺構の検出はなかった。遺物の時期は、瓦器椀の体部の器面に残るミガキなどの調整から、おそらく鎌倉時代であると思われる。今回の調査の南東側約200ｍ地点では財団法人八尾市文化財調査研究会が第１次調査を行っており、平安時代末から室町時代中期の遺構の存在を確認していることから、今回確認した３層と４層は同時代の遺構面に相当する可能性が高く、近隣に遺構が存在している可能性が高いと推測される。　(西村公助)

参考文献

・原田昌則　1996「13. 佐堂遺跡(第１次調査)」『平成７年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会

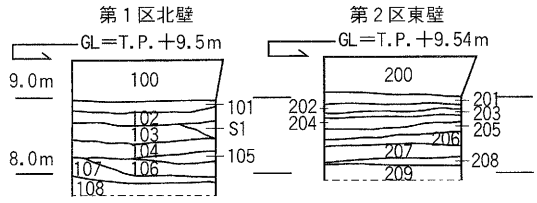
3　成法寺遺跡(2002－２)の調査

１．調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

２．調査地：八尾市南本町２丁目30番３の一部、30番25の一部、36番２、37番１、37番２

３．調査期間：平成15年１月29日

４．調査方法：規模約2.0×2.0m、面積約4.0㎡２箇所(第１区・第２区と呼称)について、現地表(T.P.＋9.5m前後)下1.8m前後までを機械と人力を併用して掘削し、調査を行った。



第７図　地層断面図(Ｓ＝1/100)

５．調査概要：【地層】(第１区)現地表下0.5m前後までは客土・盛土(100層)。以下現地表下1.8m前後までの1.3m間で、８層もの地層を確認した。101層は黒褐色細礫混シルト～中粒砂。撹拌を受けた地層で、旧耕土に相当する。102層はにぶい黄褐色極粗粒砂～細礫混シルト～中粒砂で、土師器や瓦器の細片が混在する。103層は黄灰色極粗粒砂～細礫混シルト～極細粒砂である。炭化物や瓦器の細片を極少量含む地層で、管状の酸化マンガンの沈着も認められる。その層相から判断すると、102層・103層は土壌化層と推測される。Ｓ１は黄灰色シルト～極細粒砂(瓦器細片が混在。雲状の酸化マンガンを含む)で、103層上面から切り込む遺構の埋土の可能性も考えられる。104層以下は水成層である。104層は灰色極細粒砂～細粒砂で、管状の酸化マンガンを含む。105層は灰色細粒砂～中粒砂。106層は黒褐色粘土質シルトで粘性に富む。木片がラミナ状に入っている。一時期、閉塞した湿地帯のような環境下にあった可能性が高い。107層は黄灰色細粒砂～中粒砂で、ラミナ構造を有する。108層は暗灰黄色粗粒砂～極粗粒砂。雲状の酸化鉄分が沈着する。

(第２区)現地表下0.5m前後までは客土・盛土層(200層)。以下現地表下1.6mまでの1.1m間で、９層もの地層を確認した。201層は黒褐色細礫混シルト～中粒砂。101層同様、撹拌を受けた地層で、旧耕土に相当する。202層は褐灰色細礫混シルト～極細粒砂。203層は暗灰黄色シルトで、雲状に沈着した酸化マンガンを極少量含む。204層は灰オリーブ色細礫混シルト～細粒砂。なお202層～204層はその層相から判断すると、土壌化層の可能性が高い。205層以下は水成層である。205層は灰黄褐色シルト～粗粒砂で、わずかではあるがラミナ構造も認められる。雲状の酸化マンガンを極めて多く含む。206層は灰黄褐色シルト～極細粒砂。207層は黄灰色シルト～粗粒砂で、ラミナ構造が良好に残る。208層は灰オリーブ色を呈したシルトでグライ化が目立つ。209層は灰黄褐色粗粒砂～極粗粒砂で、雲状の酸化鉄分を多く含む。

【検出遺構・出土遺物】検出遺構はなし。出土遺物は上記の通り、両調査区から瓦器細片が少量出土している。

６．まとめ：今回の調査地の南約200m地点で実施された第13次調査(ＳＨ94－13)では、鎌倉時代後期の井戸や土坑、小穴、溝で構成された居住域を検出している。したがって、今回の調査地でも当該期の遺構・遺物の検出を想定したわけであるが、成果は上記の通りである。調査面積が小さいこともあり、不明な点が多い。ただし、出土した遺物はいずれも細片であることから判断すれば、第13次調査で検出された居住域が当調査地にまで広がることは否定的と言えよう。　(樋口　薫)

参考文献

・西村公助　1994「15.成法寺遺跡第13次調査(ＳＨ94－13)」『平成６年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会

4　東郷遺跡(2002－426)の調査

1．調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市桜ヶ丘３丁目132番地

3．調査期間：平成15年１月28日

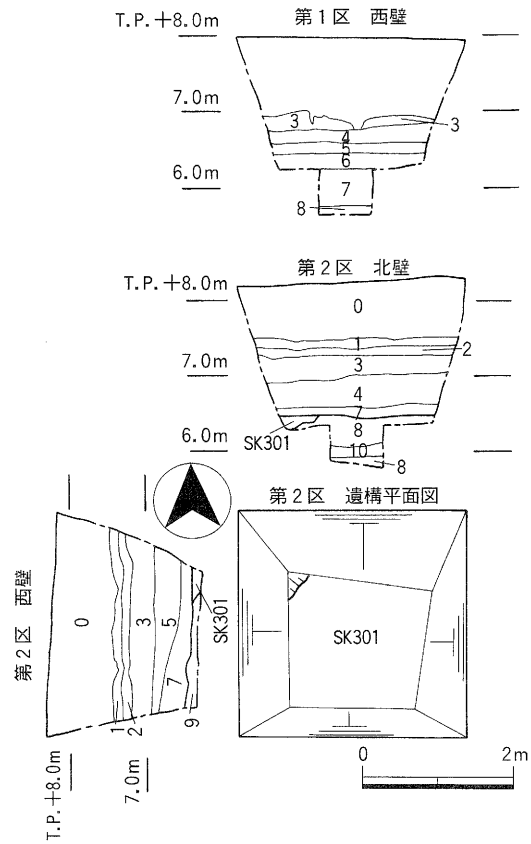
4．調査方法：共同住宅建設予定地内の北西隅(第１区)、北部中央(第２区)、南西隅(第３区)にそれぞれ１箇所ずつ計３箇所に調査区を設定し、いずれも３ｍ四方の規模で掘削を実施した。掘削は現況地盤(T.P.＋8.0～8.3ｍ)から1.0ｍまでの盛土(第０層)および近・現代の作土層(第１層)を重機で排除した後、以下約1.5ｍの地層を重機と人力を併用して掘削した。

5．調査概要：【層序】第３区については、現況地盤から約2.5ｍまで産業廃棄物の埋め戻しによって撹乱されていた。以下、第１区と第２区で確認した第２層以下の層序について記述する。

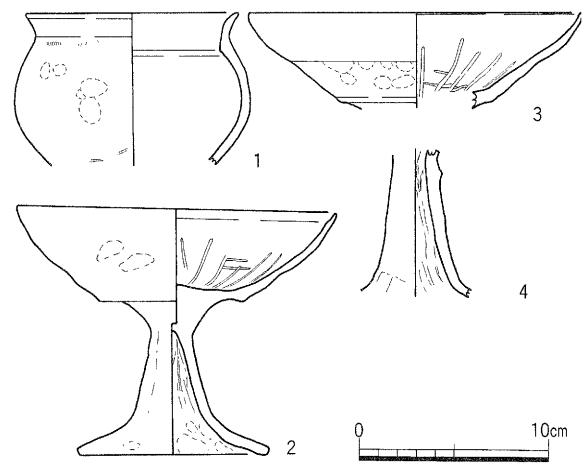
第２層－7.5YR6/2灰褐色砂礫混じりシルト(マンガン斑が認められる)、第３層－7.5YR7/6橙色シルト(古墳時代中期以降に比定される土師器および須恵器の破片を数点検出した)、第４層－10GY3/1暗緑灰色シルト(本層からも第３層と同時期の遺物片を数点検出した)、第５層－7.5YR4/2灰褐色砂礫混じりシルト(古墳時代中期に比定される土師器片を含む)、第６層－N4/0灰色シルト、第７層－10BG6/1青灰色砂質シルト(古墳時代中期に比定される土師器片を含む。とくに第２区では第１区に比して量的に多い)、第８層－10YR8/3浅黄橙色シルト(第２区では本層の上面(T.P.＋6.5ｍ前後)において、古墳時代中期に比定される土坑ＳＫ301を１基検出した)、第９層－10BG6/1明青灰色粘土質シルト、第10層－5PB7/1明青灰色細粒砂(湧水があり、河成する堆積層と推定される)。

【検出遺構と出土遺物】第２区の北西隅において古墳時代中期に比定される土坑(ＳＫ301)を１基検出した。遺構掘方の北部および西部は調査区外に至るため全容は不明である。検出規模は、最大径25cm・深さ20cmを測る。遺構内埋土は上層と同じ第７層で、遺物は土師器片の小破片が数点出土したが図化できなかった。

今回の調査で出土した遺物のうち図化できたものは、第２区の第７層から出土した小型壷１点(１)、高杯３点(２～４)の計４点である。１は球胴化した体部から短く外反する口縁部に至る。口径11cm・体部最大径12.4cmを測る。２はほぼ完形品に近いものである。杯部に段を有するもので、口縁部は底部から内彎して伸びる。杯内面には、放射状のヘラミガキが施される。脚柱部の外面には縦方向に幅広のヘラミガキが施されるが、脚裾部は内外面ともに指頭



第８図　地層断面図・平面図（Ｓ＝1/100）



第９図　第２区－第７層出土遺物実測図(Ｓ＝1/4)

圧痕が顕著に見られ、粗雑な作りである。口径16.7cm・裾部径9.6cm・器高13.2cmを測る。3は杯部、4は脚部のみの残存で、いずれも形態と調整から見て2と同種のものと思われる。3の杯部口径は17.5cmを測る。3点ともに古墳時代中期後葉頃に比定される。

6．まとめ：今回の調査区付近では、南側では八尾市教育委員会による第22次調査、北西側と東側では当研究会による第24次・第38次調査の3件の調査が実施されている。その結果、第22次調査では古墳時代前期に比定される建物址、第24次調査では弥生時代後期～鎌倉時代に至る4時期の遺構、第38次調査では古墳時代初頭に比定される溝をそれぞれ検出している。本調査の第1区が第38次調査に近接しており、同時期（古墳時代初頭）の遺物と推定される堆積層を確認した。また、第3区で検出した土坑（SK301）については、本地区の南東側に当たる第24次調査において5世紀中葉に位置付けられる円筒埴輪を伴う古墳が検出されており、位置関係ともに年代観も含め、この古墳との有機的関係が示唆される。（岡田）

参考文献

・米田敏幸　1987「東郷遺跡第22次発掘調査概要」『八尾市内遺跡昭和61年度発掘調査報告書Ⅱ』八尾市文化財調査報告15　八尾市教育委員会

・高萩千秋　1991「第3章　第24次調査」『東郷遺跡　－第23次・第24次発掘調査報告－』（財）八尾市文化財調査研究会報告29　（財）八尾市文化財調査研究会

・岡田清一　1992「ＸＩ　東郷遺跡（第38次調査）」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』（財）八尾市文化財調査研究会報告34　（財）八尾市文化財調査研究会

5　東郷遺跡（2002－345）の調査

1．調査名：共同住宅建築に伴う遺構確認調査

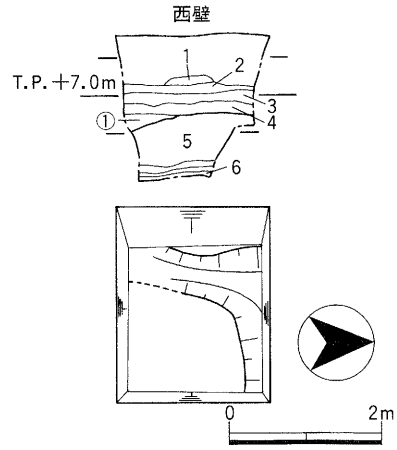
2．調査地：八尾市桜ヶ丘1丁目48番2

3．調査期間：平成15年1月30日

4．調査方法：建築予定地内に2m四方の調査区を2箇所（南から第1・2区）設定し、現地表下2.0m前後までの掘削を行った。高さの基準は、調査地の東約100地点の水準（T.P.＋8.109m）から移動した。

5．調査概要：調査区の層序は概ね一定で、盛土以下1～6層を検出した。現地表面の高さはT.P.＋6.7～6.8mで、南が高い。盛土の厚さは0.4～0.8m、1層旧耕土上面の高さはT.P.＋7.1～7.3mを測る。2・3層は鉄・マンガン等を含む撹拌された層で、作土と考えられる。4層はマンガンを含む硬く締まった層で、土器の極小破片を含んでいる。5層以下は水成層で下部にはラミナがみられ、厚さ0.6～0.8mで6層に至る。

6．まとめ：調査の結果、第1区の現地表下1.1m（T.P.＋6.7m）の5層上面で、L字形に曲がる溝状遺構を検出した。南北－東西に屈曲するもので、幅0.6m・深さ0.4mを測る。埋土は細粒砂にシルト質粘土のブロックで、遺物は出土していない。周辺の調査結果から、方形周溝墓の可能性も考えられるが、マウンドの盛土は確認できていない。（成海佳子）



1　10YR4/2灰黄褐色礫混砂質シルト
2　10YR5/4にぶい黄褐色礫混粘土質シルト
3　10YR6/2灰黄褐色礫混粘土質シルト
4　10YR4/4褐色礫混粘土質シルト
5　10YR5/6黄褐色シルト～細礫
6　N4/0灰色粗粒砂～礫
①　10YR3/1黒褐色粘土質シルト（溝）

第10図　地層断面図・平面図（S＝1/100）

参考文献

・原田昌則　1987「Ⅲ　東郷遺跡（第20次調査）」『八尾市文化財発掘調査概要　昭和61年度』（財）八尾市文化財調査研究会

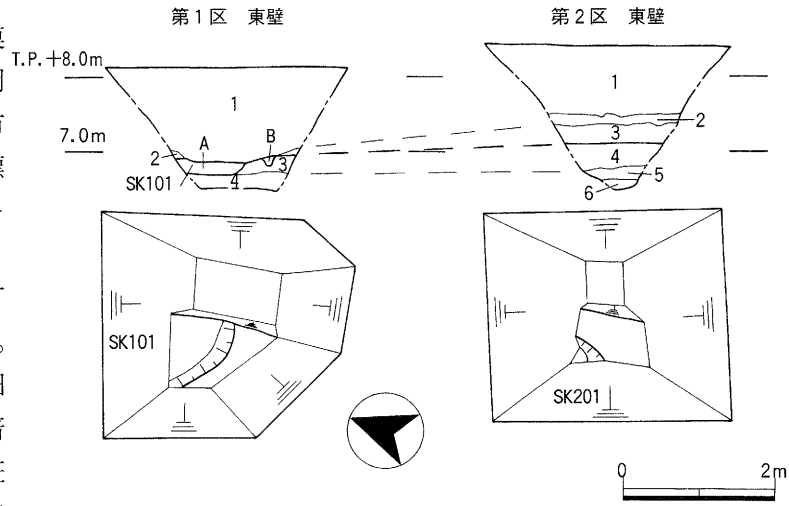
6　東郷遺跡(2002－479)の調査

1．調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市桜ヶ丘３丁目84,87,88,100

3．調査期間：平成15年３月13日

4．調査方法：建物基礎部分（規模3.0×3.0m2箇所　面積18.0m²）の調査を行った。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値（調査地の南東側道路上T.P.＋8.0m）を使用した。



第11区　地層断面図・平面図(Ｓ＝1/100)

5．調査概要：【第１区】現地表下約1.7mまでに４層の堆積を確認した。１層は盛土、２層は10YR4/6褐色細砂混粘土である。３層は10YR3/3暗褐色細粒砂混粘土で、マンガンの斑点が確認できる。上面で奈良～平安時代の遺構（土坑１基　ＳＫ101）を検出した。４層は10YR4/2灰黄褐色粘土質細粒シルトである。なお東壁には、遺構と思われるくぼみ（埋土10YR3/2黒褐色粗粒砂混粘土）を確認した。

ＳＫ101：土坑の肩は南側のみの検出であるため、形状や規模は不明である。深さは約0.2mを測り、埋土は10YR2/3黒褐色粗粒砂混粘土で、土師器(１)や須恵器(２・３)が出土した。１は皿で、内湾して伸びる口縁部。端部は凹線状にくぼむ。体部外面に指頭圧痕が残る。２は杯身で、内面回転ナデ、外面は回転ケズリ。外面には先が細く尖った工具を押さえつけたことにより、くぼんだ線が確認できる。ヘラ記号か？３は甕の体部で、内面同心円タタキ、外面格子タタキを施す。

また、１層からは土師器(４)、３層内からは須恵器(５)が出土した。４は杯で、端部に面をもつ。内外面は強いヨコナデによる凹凸が確認できる。５は杯蓋である。凹凸のある天井部で、口縁端部は下方へつまみ出し丸く終わる。外側に面をもつ。内外面ともに回転ナデを施す。

この他、上げ土からは土師器(６)・須恵器(７)の破片が出土した。６は甕の口縁部である。外反する口縁部で、内外面はヨコナデを施す。７は壷の体部～頸部で、頸部は直立ぎみに外側へ伸びる。内外面ともに回転ナデを施す。

【第２区】現地表下約1.9mまでに６層の堆積を確認した。１層は盛土。２層はN3/0暗灰色細粒砂混粘土の旧耕作土である。３層は10YR4/6褐色細粒砂混粘土、４層は10YR3/3暗褐色細粒砂混粘土で、マンガンの斑点が確認できる。４層上面で奈良時代から平安時代の遺構（土坑１基　ＳＫ201）を検出した。５層は10YR4/2灰黄褐色粘土質細粒シルト、６層は7.5YR6/2灰褐色粘土質細粒シルトである。

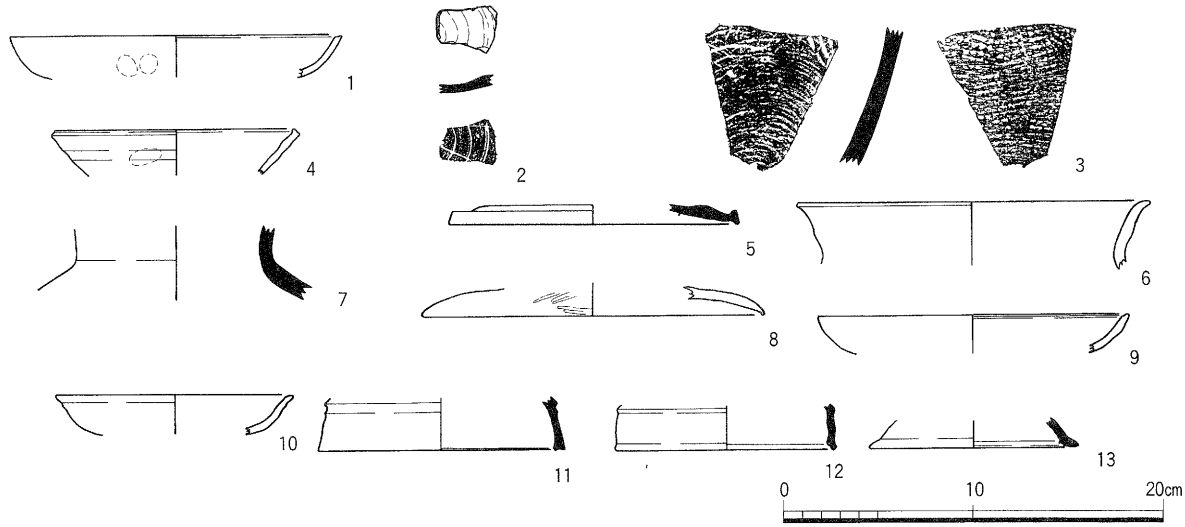
ＳＫ201：遺構の肩は東側のみの検出で、南・西・北側は調査区外にいたるため、形状や規模は不明である。深さは約0.1mを測り、埋土は10YR3/4暗褐色粗粒砂混粘土で、土師器や須恵器の破片が出土した。８は土師器の杯蓋である。

また、４層からは土師器(９・10)・須恵器(11～13)が出土している。９・10は土師器の皿である。11・12は杯蓋で、５世紀中頃に比定できる。13は杯蓋の天井部で、かえりが付く。６世紀末～７世紀初め頃に比定できる。

6．まとめ：今回の調査ではT.P.＋6.8～7.1mで土坑を検出した。また古墳時代や奈良時代および平安時代の遺物を含んでいる地層を確認したことから、同時期の居住域が存在している可能性が高いと考えられる。

（西村）

参考文献
・米田敏幸　1981　「東郷遺跡発掘調査概要」『八尾南遺跡・東郷遺跡発掘調査概要』八尾市文化財調査報告６　昭和55年度国庫補助事業　八尾市教育委員会
・米田敏幸　1995　「３．東郷遺跡(94－369)の調査」『八尾市内遺跡平成６年度発掘調査報告書Ⅱ』八尾市文化財調査報告32　平成６年度公共事業　八尾市教育委員会
・岡田清一　1995　「Ⅲ　東郷遺跡(第45次調査)」『東郷遺跡　財団法人八尾市文化財調査研究会報告48』(財)八尾市文化財調査研究会



第12図　出土遺物実測図(Ｓ＝1/4)

7　中田遺跡(2002－428)の調査

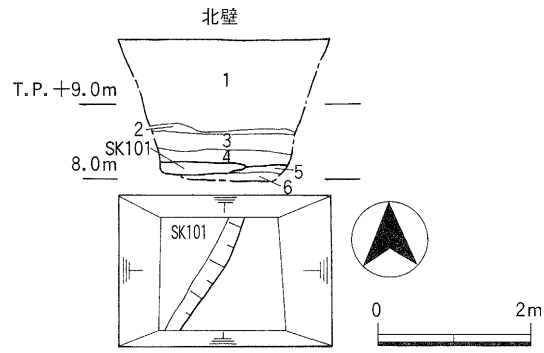
１．調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

２．調査地：八尾市八尾木北２丁目109－２

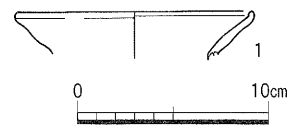
３．調査期間：平成15年２月17日

４．調査方法：人孔部分(規模2.0×2.0m面積４m^2)の調査を行った。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値(調査地の北西側道路上T.P.＋9.5m)を使用した。

５．調査概要：現地表下約1.9mまでに６層の堆積を確認した。１層は盛土で、２層は5B2/1青灰色細粒砂混粘土で、旧耕作土である。３層は7.5YR5/6明褐色細粒砂混粘土で、４層は10YR5/2灰黄褐色粘土質細粒シルトである。５層は10YR4/1褐灰色粘土質細粒シルトで、マンガン斑点が認められる。６層は2.5Y4/1黄灰色粘土である。５層上面で古墳時代前期（布留式期）の土坑１基(ＳＫ101)を検出した。遺構の肩は東側のみの検出であるため、形状や規模は不明である。深さは0.3mを測る。埋土は灰褐色細粒砂混粘土で、炭化物を含み、古式土師器の破片が少量出土した。１は布留傾向甕である。口縁部は外反する。端部は内側へ丸くつまみだす。



第13図　地層断面図・平面図(Ｓ＝1/100)



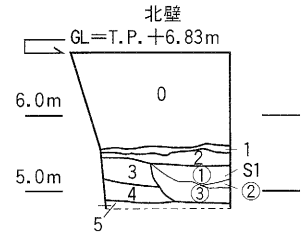
第14図　ＳＫ101出土遺物実測図(Ｓ＝1/4)

６．まとめ：古墳時代前期の遺物が出土していることから、同時期の集落が存在していると思われる。

(西村)

参考文献
・1974『中田遺跡』中田遺跡調査報告Ⅰ　日本電信電話公社大阪東地区管理部地下線埋設工事に伴う調査　中田遺跡調査センター

8　美園遺跡(2002－424)の調査



第15図　地層断面図(S＝1/100)

1．調査名：兼用住宅建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市美園町４丁目65－109、110

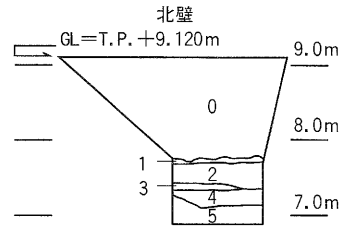
3．調査期間：平成15年２月12日

4．調査方法：規模約2.0×2.0m、面積約4.0m²１箇所について、現地表（T.P.+6.83m前後）下2.0m前後までを機械と人力を併用して掘削。なお、調査で使用したレベル高は、八尾市作成１/2500地図に記載されているレベル高値(調査地の南東に位置するＴ字路のセンター：T.P.+6.8m)を使用した。

5．調査概要：【地層】現地表下1.2m前後までは客土・盛土(０層)。以下現地表下2.0m前後までの0.8m間で５層の水平堆積層と３層の遺構内埋土と思われる地層を確認した。１層は、暗灰色極細粒砂～細粒砂で、ブロック状に２層が混在する。おそらく撹拌をしたことによって２層が巻き上がったのであろう。旧耕土に相当すると思われる。２層は、オリーブ灰色細粒砂～粗粒砂で形成された水成層である。東に向かうにつれて粗粒化し、層厚も増す。３層は、オリーブ灰色粗粒砂～細礫。３～５㎝大のブロックが混在し、汚れた地層である。４層は、オリーブ灰色中礫混粗粒砂～細礫。水成層である。５層は、灰色シルト質粘土で、マンガン斑を極めて多く含む点が特徴的である。Ｓ１は３層上面から切り込む遺構と推測される。埋土は①～③の３層に分層できる。①層はオリーブ灰色シルト～細礫で、水平に発達したラミナ構造が見える。②層はオリーブ灰色シルトで、こちらも水平ラミナが発達している。一方③層は、灰オリーブ色を呈した細礫混粘土質シルトのブロック(3～5cm大)で形成された地層である。

【検出遺構・出土遺物】北壁地層断面で確認したＳ１のみである。遺構に伴う遺物は皆無であるため、時期などは不明。　(樋口)

9　跡部遺跡(2002－496)の調査



第16図　地層断面図(S＝1/100)

1．調査名：事務所付工場建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市跡部北の町２丁目47－１、47－２

3．調査期間：平成15年５月１日

4．調査方法：人坑部分(規模約2.5×2.5m、面積約6.25m²)１箇所について、工事により破壊される現地表下2.5m前後までを調査した。調査で使用したレベル高は、八尾市作成１/2500地図に記載されているレベル高値(調査地の南を東西に伸びる道路上：T.P.+9.0m)である。

5．調査概要：現地表(T.P.+9.126m)下1.4mまでは、客土・盛土。以下現地表下2.2m前後までの0.8m間で５層(１～５層)の地層を確認した。１層は、暗オリーブ灰色シルト質粘土～粘土質シルトである。旧耕土と推測される。２層はオリーブ灰色粘土質シルト。本層も１層同様撹拌を受けた地層である。３層は灰オリーブ色シルト～極細粒砂。水成層である。４層はオリーブ灰色極細粒砂～細粒砂で形成された水成層である。下方において、ブロック土の混在しているところが認められる。５層はにぶい黄褐色シルト質粘土。雲状の酸化マンガンを極めて多く含む地層である。遺構は検出されなかった。出土遺物は、２層内に瓦の細片(時期不明)が混入していただけである。　(樋口)

参考文献

・小林義孝　2002『跡部遺跡』大阪府埋蔵文化財調査報告2001－６　大阪府教育委員会

10　跡部遺跡(2003－128)の調査

1．調査名：共同住宅建築に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市春日町１丁目51の一部、52の一部

3．調査期間：平成15年７月18日

4．調査方法：建築予定地内に３m四方の調査区を３箇所(西から反時計回りに第１～３区)設定し、現地表下2.0m前後までの掘削を行った。調査地の東約40m地点の基準点(旧国土第Ⅵ系X＝－153,412,061・Y＝－37,327,919・H＝T.P.＋9.5m)から、標高・座標等を移動した。各調査区とも、現地表から0.7～1.0m程度までに堆積する耕土・床土等を重機によって掘削し、５層以下の地層については、各層ごとに上面精査を繰り返し、遺構・遺物の検出に努めた。その結果、第２区で古墳時代前期・中期・奈良時代以降の遺構、第３区で飛鳥時代以降の埋没河川を検出した。

5．調査概要：調査地上面の高さはT.P.＋8.5～9.0mで、北側の道路より0.6～0.7m低い。調査地の旧状は水田である。１層耕土以下には、２層整地層・３層旧耕土があり、それ以下には４層床土・作土が0.3～0.5mの厚さで堆積している。５層はマンガンを多量に含み、層厚0.1～0.5mを測る。層中からは土師器・須恵器・瓦が少量出土している。６層は上面に鉄分を多量に含むもので、層厚0.1～0.3mを測るが、第３区にはなかった。以下７・８層も第３区では認められず、第３区ではこの時期、埋没河川④～⑥がこれに対応する。以下９・10層が全地区を通じて認められ、第３区最下では11層まで確認した。

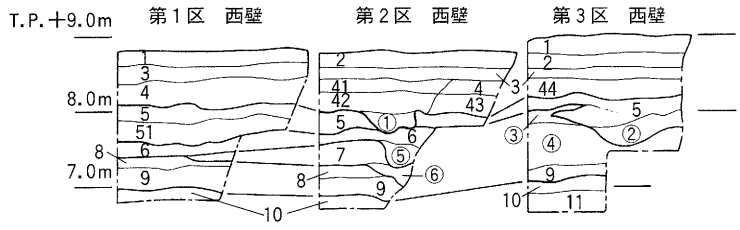
第１面溝①　第２区－５層上面で検出した。東西方向に伸び、幅0.7m・深さ0.3mを測る。４層からなる高まりの裾部に掘られたもので、農事用の区画溝の可能性がある。

第２面河川②～④　第３区－５層直下で、南東－北西に流路を持つ河川を検出した。切り込み面はおそらく６層上面であろう。このうち②は、河川埋没後に構築された溝、または最終の河川流路であろう。近隣の調査結果から、飛鳥時代以降と考えられる。

第３面土坑⑤　第２区－７層上面で検出した。径1.0m前後の円形で、深さは0.5mである。内部から完形の土師器甕(第18図)が須恵器片とともに出土した。５世紀中頃のものであろう。

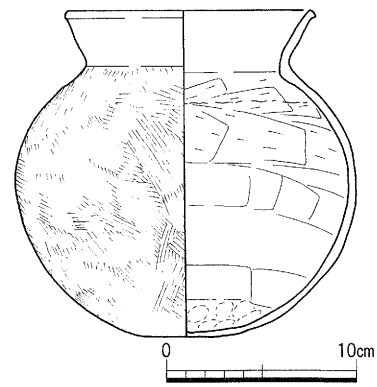
第４面溝⑥　第２区－８層上で北西方向へ２段に落ちる溝肩を検出した。埋土は粗いブロックからなる。

6．まとめ：近隣の調査結果同様、複数の時期の遺構・遺物を検出した。T.P.＋8.0m前後の５層中には、飛鳥時代以降の土師器・須恵器・瓦などの小破片が少量含まれており、整地された可能性がある。それ以降の当地は、農地として利用されていたようである。T.P.＋7.0m前後で認められた10層は、弥生時代後期の遺構ベースに対応するものと考えられ、弥生時代の遺構面(第５面)も広範囲にわたって存在していることがわかる。　(成海)



1　10YR3/1黒褐色礫混砂質シルト（耕土）
2　真砂土(近年の整地層)
3　10YR4/2灰黄褐色礫混砂質シルト(旧耕土)
4　2.5Y6/4にぶい黄色粗粒砂～礫混砂質シルト
41　5BG4/1暗青灰色粗粒砂～礫混砂質シルト
42　2.5Y6/1黄灰色粗粒砂混砂質シルト
43　10YR5/3にぶい黄褐色粗粒砂～礫混砂質シルト
44　10YR5/6黄褐色粗粒砂～礫混砂質シルト
45　2.5Y6/2灰黄色粗粒砂～礫混砂質シルト
5　10YR4/4褐色粗粒砂～礫混砂質シルト
51　10YR5/6黄褐色～2.5Y6/2灰黄色極細粒砂
6　2.5Y6/1黄灰色砂質シルト～極細粒砂
7　5BG5/1青灰色砂質シルト～極細粒砂
8　5BG5/1青灰色極細粒砂混粘土質シルト
9　5BG4/1暗青灰色粘土と植物遺体の互層
10　5BG2/1青黒色極細粒砂混粘土質シルト
11　5BG3/1暗青灰色粘土質シルト混極細粒砂
①　N7/0灰白色粗粒砂(古代～中世頃の農事用溝？)
②　2.5Y6/3にぶい黄色砂質シルト～極細粒砂
③　10YR6/1褐灰色粗粒砂
④　N7/0灰白色・2.5Y6/2灰黄色・10YR4/4褐色極細粒砂～礫の互層　(河川)
⑤　5BG5/1青灰色粘土質シルト(古墳時代中期の土坑)
⑥　5BG4/1暗青灰色極細粒砂に5BG2/1青黒色粘土質シルトのブロック(古墳時代前期の溝)

第17図　地層断面図(S＝1/100)



第18図　出土遺物実測図(S＝1/4)

11　跡部遺跡(2003－201)の調査

1．調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

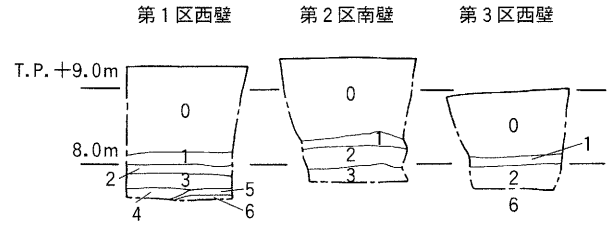
2．調査地：八尾市跡部本町１丁目54・55－１・－４・－６・58－１・－３・－４及び53－２・55－２・－３・－５の一部

3．調査期間：平成15年９月10日

4．調査方法：調査地内に1.5×1.5mの調査区を北から第１～３区と称して計３箇所設定し、掘削は現地表(T.P.＋9.0～9.4m)下約1.5mまで実施した。

5．調査概要：【層序】現地表から１m前後は以前の建築物(工場)に伴う盛土(第０層)で、その下に0.2m前後の旧耕作土(第１層)が堆積する。なお、現地表の標高は第１・２区がT.P.＋9.4m前後、南端部にあたる第３区はT.P.＋9.0m前後と、現地では南部が0.4m前後低くなっている。第２層－5BG2/1青黒色シルト(近世の磁器片が若干含まれる)、第３層－5YR7/2明褐灰色シルト(中世頃と思われる土師器片が若干含まれる)、第４層－5PB6/1青灰色砂質シルト(氾濫性の水成層)、第５層－2.5Y4/1黄灰色シルト(炭化物と時期不明の土師器片が若干含まれる)、第６層－N7/0灰白色極細粒砂(氾濫性の水成層で、湧水層が著しい)。

6．まとめ：遺構は検出されなかったが、中世頃に比定される遺物片を若干検出できた。周辺における既往の調査成果と今回確認した地層から判断すると、当地点において中世以前は河道であったことが推測される。　(岡田)



第19図　地層断面図(S＝1/100)

12　植松遺跡(2003－145)の調査

1．調査名：兼用住宅建設に伴う遺構確認調査

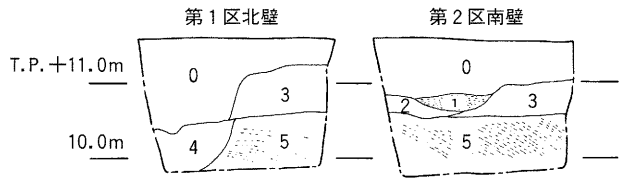
2．調査地：八尾市植松町３丁目７－６の一部

3．調査期間：平成15年９月16日

4．調査方法：調査地内に2.0×2.0mの調査区を２箇所設定し、西を第１区、東を第２区と称した。掘削は現地表(T.P.＋11.6m前後)下約1.8mまで実施した。

5．調査概要：両調査区ともに現地表から1.0m前後は盛土および撹乱(第０層)で、その下0.8m前後の大半は水成層である砂層が堆積する。以下、確認できた第１～５層について記述する。第１層－2.5Y7/3浅黄色シルトと極細粒砂の互層(水平ラミナ構造を有する水成層である)、第２層－10YR4/1褐灰色シルト(一部、第１層に切られる)、第３層－5Y8/4淡黄色シルト～極細粒砂(第２区では、第１・２層に切られる層位関係が認められる)、第４層：2.5Y6/3にぶい黄色シルト～細粒砂(２cm前後の礫を若干含む)、第５層－10YR8/3浅黄橙色極細粒砂（氾濫性の水成層で、斜行ラミナが顕著に見られる)。

6．まとめ：両調査区ともに現代の盛土および撹乱層の下には、概ね河川の氾濫による厚い砂層の堆積が見られる。今回の調査では遺物が皆無で、地層の年代観が不明である。当地点の南側には、元亀三年(1572)に移建されたと伝わる式内社「渋川神社」が鎮座しているが、当地一帯は現在のところ考古学的な調査が実施されておらず、今後の調査の累積を要する。　(岡田)



第20図　地層断面図(S＝1/100)

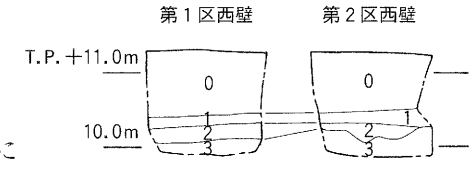
13　太田遺跡(2003－277)の調査

1．調査名：分譲住宅建設工事に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市太田新町２丁目95番地

3．調査期間：平成15年12月４日

4．調査方法：建設予定地内の北部に１箇所(第１区)、中央部に１箇所(第２区)の２箇所の調査区を設定し、工事深度に準じて現地表(T.P.＋約11.3m)下約1.3mまでの掘削を行った。



第21図　地層断面図(S＝1/100)

5．調査概要：両調査区ともに現地表下0.9m前後は既存の工場建設時の盛土(第０層)、第１層－N2/0黒色シルト(近・現代の耕作土)、第２層－5Y4/2灰オリーブ色砂礫混じりシルト(近世の整地層と思われる)、第３層－2.5Y5/4オリーブ褐色シルト(水成層)が堆積する。遺物は、第２・３層から近世に比定される土師器および陶磁器の破片が少量出土したが、遺構は確認されなかった。

6.まとめ：本調査地は太田遺跡の北西端にあたるところで、付近における既往の調査では北側の木の本遺跡となる八尾飛行場内の空港整備に伴なう一連の調査がある。これらの調査では、T.P.＋８～９m付近で平安時代～近世にかけての条里遺構が検出されている。今回の調査は、その深度まで達するものではないが、近・現代の耕作土層の存在状況から見て、近世にあたる条里遺構の存在が想定される。

(岡田)

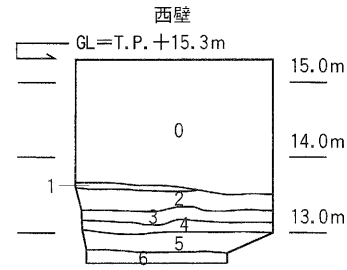
14　大竹西遺跡(2003－41)の調査

1．調査名：店舗建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市楽音寺１丁目140、141、142

3．調査期間：平成15年８月13日

4．調査方法：規模約3.0×2.0m、面積約6.0m²１箇所について、現地表下2.7m前後までを調査した。なお、調査におけるレベル高は、八尾市作成１/2500地図に記載されているレベル高値(調査地の東を南北にはしる旧国道170号線上の：T.P.＋15.3m)を使用した。



第22図　地層断面図(S＝1/100)

5．調査概要：今回の調査地は、最近まで水田として利用されていたようで、調査地の東隣を南北に走る旧国道170号線よりも約1.3m低い。したがって、掘削開始レベルはT.P.＋14.030m前後である。

現地表下1.7m前後までは客土・盛土(０層)。以下現地表下2.7m前後までの1.0m間で６層の地層を確認した。１層は、暗オリーブ灰色シルト質粘土。水田耕作土である。２層は、細粒砂～粗粒砂のブロックが混在する黄褐色シルト質粘土である。整地層の可能性が考えられる。３・４層は、にぶい黄褐色粘土質シルト～シルト。酸化が著しいが、地層はあまり汚れた印象を受けない。５層は、灰色細礫混シルト～中粒砂。２～３cm大のブロックで形成された地層である。６層は灰色～灰オリーブ色極粗粒砂～細礫混シルト～極細粒砂。非常に硬い地層である。検出遺構・出土遺物はなし。

6．まとめ：今回の調査では、遺構の検出、遺物の出土は皆無であった。しかしながら地層を観察すると、５層や６層のようにブロックで形成された地層が存在することから、これらの地層を平面的に追いかけていけば、遺構が検出される可能性が高い。なお、本調査地の南東約120mでは、八尾市教育委員会による遺構確認調査が実施されており、その結果、弥生時代後期の遺物を含む土坑をはじめ、古墳時代後期の鏡塚古墳に関連する可能性を秘めた溝を検出している(澁1993)。したがって、本調査地においもこの時代の遺構が検出される可能性を否定できない。

(樋口)

参考文献

・澁　斎　1993「11. 大竹西遺跡(92－063)の調査」『八尾市内遺跡平成４年度発掘調査報告書Ⅰ』八尾市文化財調査報告27　平成４年度国庫補助事業　八尾市教育委員会

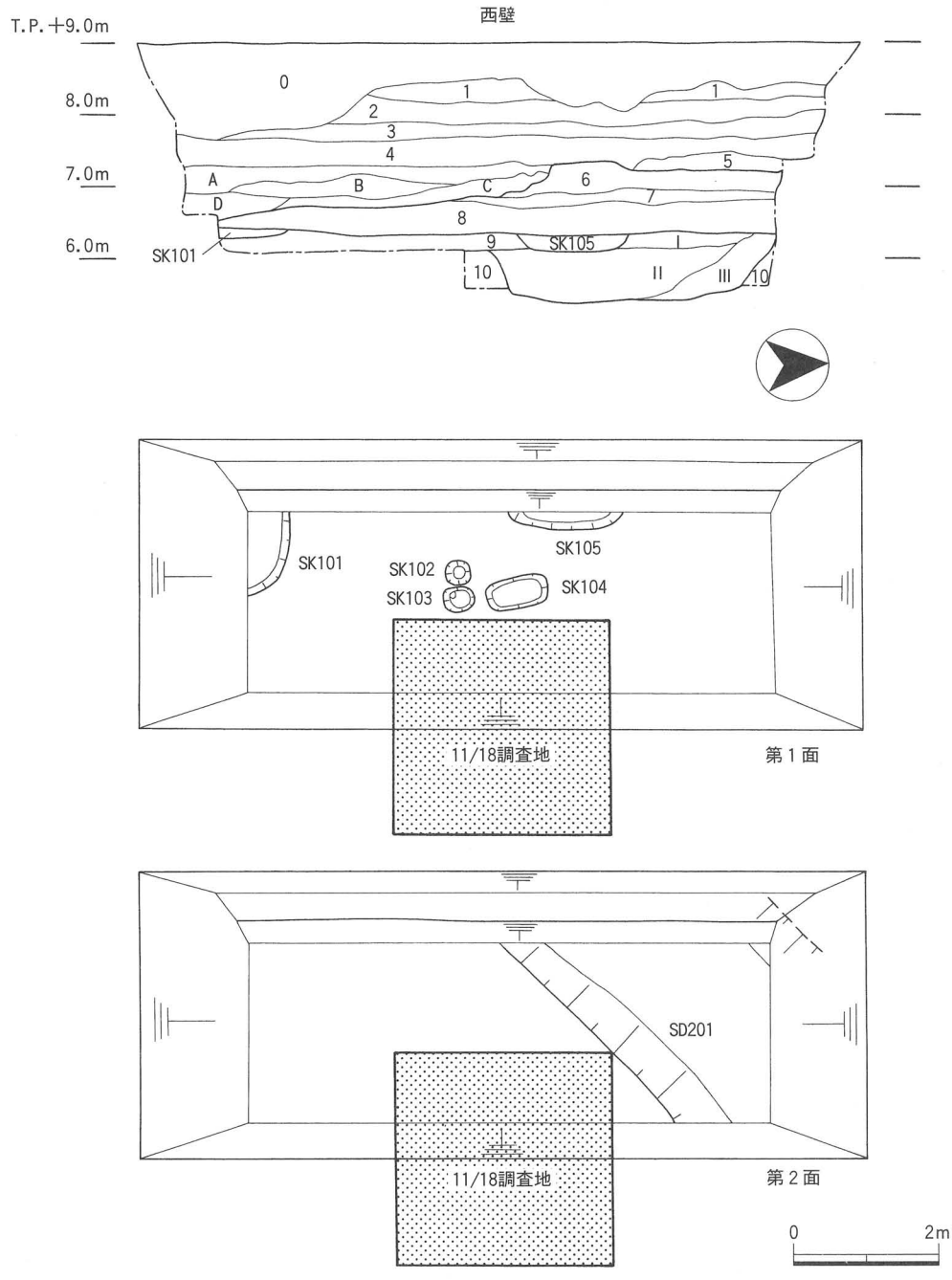
15　亀井遺跡(2003－178)の調査

1．調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市南亀井町２丁目20,22,23,24番

3．調査期間：平成15年11月18日　12月９・10日

4．調査方法：調査対象となるのは防火水槽部分である。水槽位置の一部に３ｍ四方の調査地を設定し、工事の深さである現地表下約4.0ｍまでの調査を11月18日に実施した。その結果、T.P.＋6.0～7.5ｍで、弥生時代中期～後期にかけての遺物を含む地層を確認した。このことから、水槽部分全体（南北10ｍ×東西4ｍ　面積40㎡）の調査を実施することとなった。なお、掘削の深さが４ｍ前後と深いため、壁面の崩壊を防ぐ対策として、西壁には現地表下約1.5～1.7ｍ付近で幅約0.4ｍ程度の平坦部をつけ、さらに下を掘削することとした。また、壁面については全体的に傾斜を緩くした。今回の調査では調査地北西



第23図　地層断面図・平面図（S＝1/100）

側にある工事に使用している値（調査地の北西側T.P.＋10.020m）を使用した。

5．調査概要：現地表下約3.6mまでに10層の堆積を確認した。0層は盛土で、現地表面はT.P.＋10.4～10.6m前後を測る。1層5B6/1青灰色細粒砂混粘土、2層5G6/1緑灰色粗粒砂混粘土、3層10BG4/1暗青灰色粘土、4層10BG5/1青灰色粘土質細粒シルト、5層7.5YR4/2灰褐色細粒砂混粘土で、マンガン斑が多く見られる。6層N2/0黒色粗粒砂混粘土で弥生時代中期～後期の遺物が出土した。7層5B3/1暗青灰色粘土で炭化物含む、8層10YR1.7/1黒色細粒シルト混粘土で炭化物を多量に含んでおり、中期～後期の遺物が出土した。9層5B5/1青灰色粘土質細粒シルト、10層5BG6/1青灰色粘土質細粒シルト。

6層上面では、河川堆積を確認したが、面的な検出は行ってないため、規模などの詳細は不明である。河川の埋土はA　5G6/1緑灰色粘土質粗粒シルト、B　7.5YR6/2灰褐色粗粒砂、C　5B6/1青灰色粘土質細粒シルト、D　5B4/1暗青灰色粘土（植物遺体含む）で、時期は中世以前と思われる。

9層上面からは弥生時代中期後半の土坑5基（ＳＫ101～105）、10層上面からは弥生時代中期前半の溝（ＳＤ201）を検出した。

ＳＫ101：調査地西側で検出した。遺構の南西側が調査区外に至るため平面形状は不明である。検出した深さは0.15mを測る。埋土は10YR2/1黒色粗粒砂混粘土で、弥生時代中期後半頃の土器が出土した。このうち図化し記載したものは壷（1～3）・甕（4）・高杯（5）である。1の口縁と体部には簾状文を施す。2は垂下する口縁部で、外面には凹線文を施した上に円形浮文を施す。3は突出する底部で、底面は平行線状に密にミガキを施す。5はハの字にひらく裾部で、端部は外上方につまみ出し面をもつ。外面は縦方向のミガキが丁寧に施される。

ＳＫ102：調査地ほぼ中央で検出した。平面形状は円形で径0.35mを測る。断面形状は逆台形で、深さは0.15mを測る。埋土は7.5YR3/1黒褐色粘土で、弥生時代中期後半頃の土器が出土した。このうち図化し記載したものは壷（6）である。6は外反する口縁部で、端部は面をもち、櫛描直線文を施す。内面に指頭圧痕が残る。

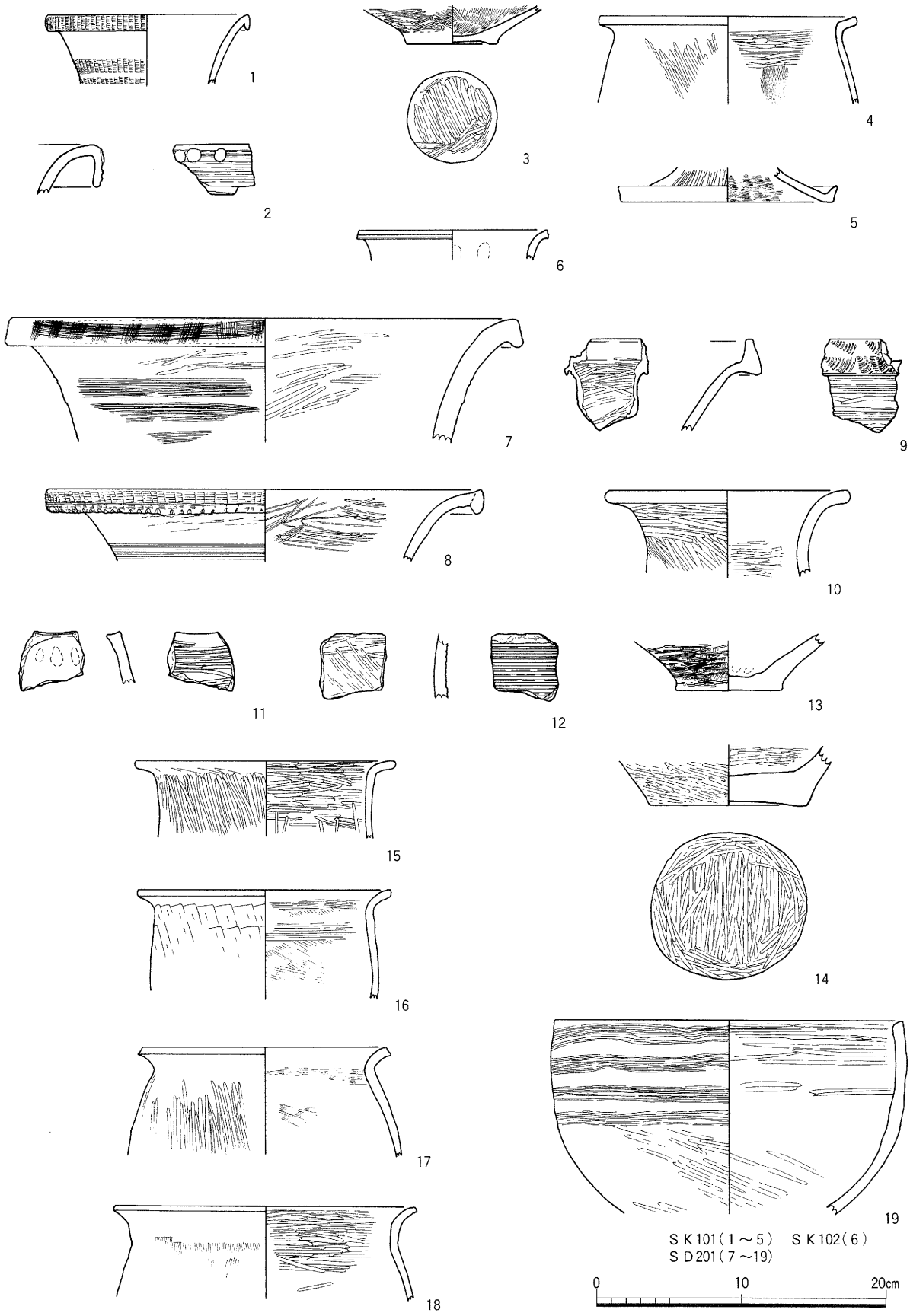
ＳＫ103：ＳＫ102の東側で検出した。平面形状は円形で径0.4mを測る。断面形状逆台形で、深さは0.18mを測る。西側には柱を抜き取った痕跡が確認できた。埋土はN3/0暗灰色粘土で、炭化物含む。弥生時代中期後半頃の土器が出土した。出土した遺物は細かい破片で図化できなかった。

ＳＫ104：ＳＫ103の北側で検出した。南北方向に長い楕円形で、長径0.8m、短径0.8mを測る。断面形状は浅い皿状で、深さ約0.1mを測る。埋土は10YR2/1黒色粗粒砂混粘土である。弥生時代中期後半頃の土器が出土した。出土した遺物は細かい破片で図化できなかった。

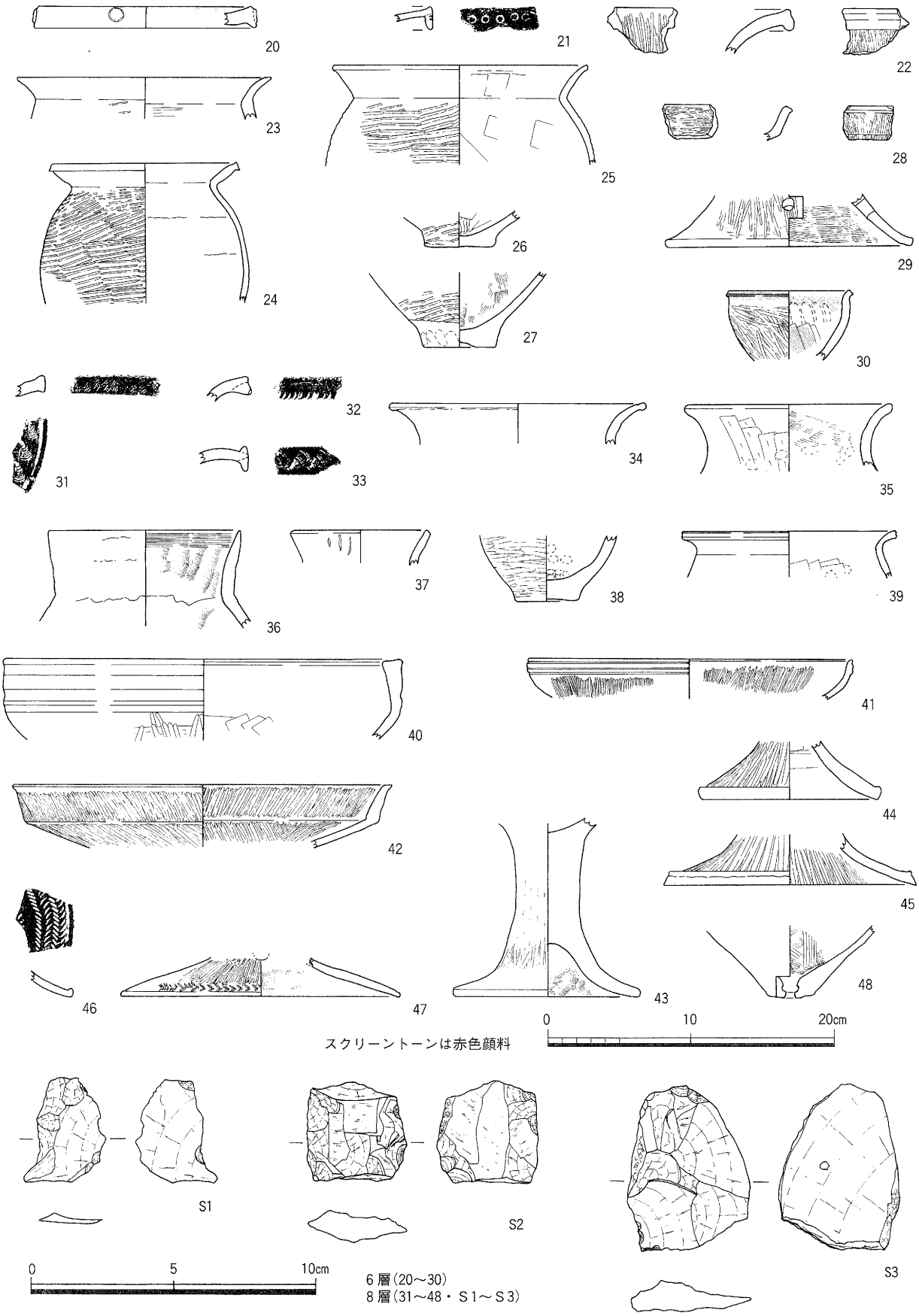
ＳＫ105：ＳＫ104の北西側で検出した。遺構の西側は調査区外に至るため遺構の規模は不明である。深さ約0.15mを測る。埋土は10YR2/1黒色粘土で、植物遺体を含む。遺物の出土はなかった。

ＳＤ201：調査区北側で検出した。南西―北東方向に伸びる。幅約3.0m、断面形状は逆台形で、深さ約0.75mを測る。埋土は上からⅠ層N2/0黒色細粒砂混粘土、Ⅱ層7.5YR1.7/1黒色粘土、Ⅲ層5B2/1青黒色細粒シルト混粘土である。Ⅱ層からは弥生時代中期中頃の土器や石器、獣骨などが多く出土した。このうち図化し記載したものは壷（7～14）・甕（15～18）・鉢（19）である。7～11は口縁部で、7の口縁部には直線文を横方向に施したのちほぼ等間隔で縦方向に直線文を施す。体部外面には直線文を3条＋α施す。内外面ミガキ。8の口縁端部はキザミ目があり、簾状文を施す。頸部から口縁部にかけての外面には粘土を折り曲げた時にできた凹凸がある。9は上下に拡張する口縁部で、端部に列点文と扇形文を施す。体部外面には直線文を施す。11は無頸壺で、外面に直線文を施す。12は前期の壷の頸部で、外面には多条沈線（10条＋α）を施す。14は突出する底部で、底面には平行線状にミガキを施す。15は水平近くまで折れ曲がる口縁部で、端部は丸く終わる。体部外面は縦方向のミガキ、内面上位横方向ミガキを施す。16は外反する口縁部。体部外面はケズリ、内面ハケを施す。17は「く」の字に折れ曲がる口縁部で、端部は面をもつ。18は外反する口縁部。外面ハケ、内面横方向のミガキを施す。19は椀形の体部。口縁部は内湾する。外面に4条の直線文を施す。

第6層からは弥生時代中期～後期の土器（20～30）が出土した。20～22は後期の壷。20は口縁部に面



第24図　ＳＫ101・ＳＫ102・ＳＤ201出土遺物実測図(Ｓ＝1/4)



第25図　第6層・第8層出土遺物実測図(土器S＝1/4石器S＝1/2)

をもち円形浮文を貼り付ける。口縁部内面には部分的に赤色顔料を塗布している。21の端部には円形竹管押圧文を施す。22の端部には凹線を施す。23～27は後期の甕。23～25は「く」の字に折れ曲がる口縁部で、体部外面に右上がりのタタキを施す。26・27は突出する底部。外面はタタキを施す。28は高杯の口縁部で、内外面丁寧にミガキを施す。29は高杯の裾部で、内面はハケ、外面ミガキを施し、円孔がある。30は後期の鉢で、体部内面は丁寧にナデており、指頭圧痕が部分的に残る。外面は左上がりのミガキを丁寧に施している。体部外面には部分的に赤色顔料を塗布している。また体部から口縁部にかけての内面にも部分的に赤色顔料を塗布している。

第８層からは弥生時代中期～後期の土器（31～48）石器（Ｓ１～Ｓ３）が出土した。31～33は中期の壷の口縁部。31は端面に波状文、口縁部下面に扇形文を施す。32は端面にキザミ目を施す。33は端面に扇形文を施す。34～38は時期の特定はできないが器種は壷とおもわれる。34・35は外反する口縁部、36・37は直立ぎみに外側へひらく口縁部をもつ。38は丸みのある体部で、底部は突出する。39はくの字に曲がる口縁部をもつ中期の甕で、端部には凹線状のくぼみが1条確認できる。40・41は中期の高杯で、口縁部外面に凹線を施す。42は後期の高杯の口縁部で、内外面ともにミガキを丁寧に施す。43は高杯の脚部から裾部、44～47は高杯の裾部で、時期は中期から後期のものと思われる。46と47の外面には列点文が施されている。48は底部有孔土器である。Ｓ１～Ｓ３はサヌカイトの石である。Ｓ２は折れているため本来の形状はわからないが、断面が菱形に近いことから石剣である可能性が高いと考える。

６．まとめ：今回の調査で検出した弥生時代中期中頃と中期後半の遺構は、約50m南西側にある財団法人大阪文化財センター（現　財団法人大阪府文化財センター）が行った寝屋川南部流域下水道事業長吉ポンプ場築造工事に伴う発掘調査でも確認している。このことから、同時期の遺構は北東へ広がっていることが明らかになった。また、後期の遺構の検出はできなかったが、同時期の遺物を含む地層【６層・８層】を確認したことから、後期の遺構も存在していた可能性が高いと思われる。　（岡田・西村）

参考文献

・中西靖人他　1982『亀井遺跡　寝屋川南部流域下水道事業長吉ポンプ場築造工事関連埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』（財）大阪文化財センター

16　木の本(2003－131)の調査

１．調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

２．調査地：八尾市南木の本５丁目62番１・２

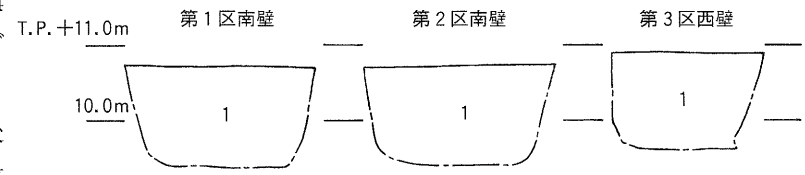
３．調査期間：平成15年９月12日

４．調査方法：人孔部分に規模2.0×2.0mの調査区を３箇所設定し調査を行った。南から第１区～第３区と呼称する。レベル高は、八尾市発行の1/2500の地図に記載している標高値（調査地の西側道路上T.P.＋10.8m）を使用した。

５．調査概要：調査は、現地表下約1.3mまで機械掘削と人力掘削を併用し実施した。現地表面はT.P.＋10.8～10.9mを測る。

【第１区～第３区】１層は10YR4/4褐色中礫混粘土で、コンクリートブロックなどが混じる盛土である。

６．まとめ：地表面から1.3m前後までは盛土で、遺構の検出および遺物の出土はなかった。　（西村）



第26図　地層断面図（Ｓ＝1/100）

参考文献

・西村公助　1991「Ⅵ　木の本遺跡（第４次調査）」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告書』（財）八尾市文化財調査研究会報告32　（財）八尾市文化財調査研究会

17　久宝寺遺跡(2003－34)の調査

1．調査名：共同住宅建築に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市大字渋川

3．調査期間：平成15年５月９・12・13・14・19日

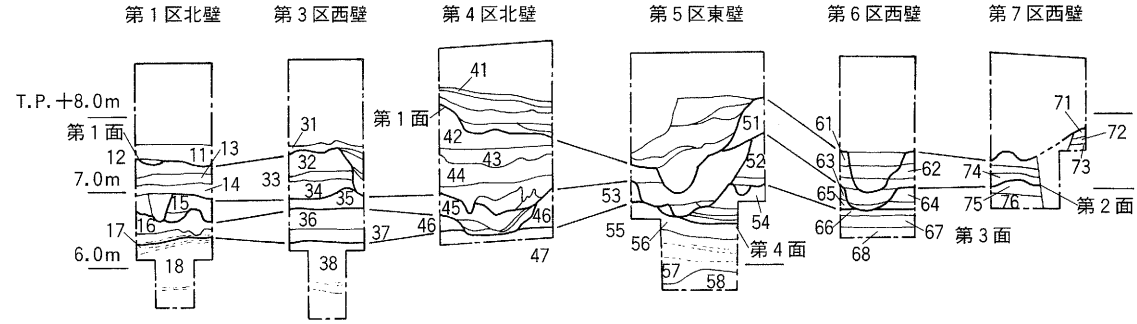
4．調査方法：建築予定地内に３m四方の調査区７区を設定した(南西から第１～７区)。掘削深度は建物予定地の第１～３・５・６区は地表下３m(T.P.＋6.8m前後)まで、駐車場予定地の第４・７区は地表下２m(T.P.＋7.0m前後)までである。このうち、第２区は中層掘削中に崩壊したため、盛土範囲までしか確認していない。高さの基準は調査地南30mの基準点(T.P.＋9.5m)から移動した。

5．調査概要：調査地の地表面はT.P.＋9.5～9.9m、盛土の厚さは第４・５区が0.6m、第１・２・６・７区が１～1.2m程度である。各調査区とも盛土・旧耕土以下に近世の遺構(第１面)が捉えられ、以下、概ね４面の遺構面が確認することができた。

第１面は島畑・水田からなる旧地形で、上面の高さはT.P.＋8.3～8.9mを測り、起伏に富んでいる。第２面は島畑のベースを構成する礫混砂質シルト上面で、T.P.＋8.0m前後を測る。第３面はT.P.＋7.7m前後の粘土質シルト上面、第４面はT.P.＋7.5m前後の砂質シルト～極細粒砂上面である。それ以下は、第１・４・６区では厚い粘土質シルトを主として極細粒砂や植物遺体を含む地層、第２・３・５区では極細粒砂～粗砂からなるラミナが認められた。

それ以下は第１・４・６区で厚い粘土質シルトを主として極細粒砂や植物遺体を含む沼沢地上の堆積、第２・３・５区では埋没河川の堆積状況を示す極細粒砂～粗砂からなるラミナが認められた。

6．まとめ：周辺の調査成果と照合すれば複数の遺構面が存在することは明らかである。調査区が狭く、出土遺物も少ないため、時期の確定は困難であるが、近隣の調査成果を勘案すれば、概ね以下のようになるものと考えられる。第１面－平安時代末期～江戸時代、第２面－奈良時代～平安時代前半、第３面－古墳時代中期～奈良時代、第４面－古墳時代前期～中期。　(成海)



第１区
11　5BG2/1青黒色・5BG5/1青灰色礫混粘土質シルトのブロック
12　5BG2/1青黒色粘土質シルト
13　5BG5/1青灰色礫混砂質シルト
14　5BG7/1明青灰色礫混砂質シルト
15　5GY6/1オリーブ灰色礫混砂質シルト
16　10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルト
17　2.5Y6/4にぶい黄色粘土質シルトと植物遺体の互層
18　5BG5/1青灰色粘土質シルト～極細粒砂に植物遺体の互層
第３区
31　10YR6/4にぶい黄橙色礫混粘土質シルト
32　10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂混砂質シルトのブロック
33　10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルトと粘土質シルトのブロック
34　10YR5/3にぶい黄褐色粗粒砂に粘土質シルトのブロック
35　10YR5/3にぶい黄褐色粗粒混粘土質シルト
36　5BG4/1暗青灰色砂質シルト混礫に粘土質シルトのブロック
37　5BG2/1青黒色粗粒砂混砂質シルト
38　5BG4/1暗青灰色粘土質シルト～極細粒砂～礫の互層
第４区
41　10YR6/4にぶい黄橙色粘土質シルト
42　5BG4/1暗青灰色粗粒砂混砂質シルトのブロック
43　5BG4/1暗青灰色粘土質シルト
44　5BG3/1暗青灰色粗粒砂～礫混粘土質シルト
45　10YR5/2細～粗粒砂(第４面遺構埋土)
46　7.5Y4/1灰色極細粒砂粘土質シルト
47　5BG4/1暗青灰色礫混粘土質シルト
第５区
51　10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂混砂質シルトと10YR6/2灰黄褐色砂質シルト・礫ブロック
52　2.5Y6/3にぶい黄色粘土質シルト
53　7.5Y5/2灰オリーブ極細粒砂混粘土質シルト
54　10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂混砂質シルト
55　10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルト
56　5BG7/1明青灰色極細粒砂
57　N-5灰色粘土質シルトとN-7灰白色極細粒砂の互層
58　5BG6/1青灰色粘土
第６区
61　N-4灰色粘土質シルト
62　10GY7/1明緑灰色極細粒砂混砂質シルト
63　2.5GY7/1明オリーブ灰色中粒砂混砂質シルト
64　5GY8/1灰白色砂質シルト
65　10YR5/3にぶい黄褐色シルト質粘土
66　N-7灰白色極細粒砂混シルト質粘土
67　N-7灰白色砂質シルト
68　N-5灰色粘土質シルト
第７区
71　N-4灰色粘土質シルト
72　10GY7/1明緑灰色シルト質粘土
73　10GY5/1緑灰色シルト質粘土
74　10GY7/1明緑灰色粘土質シルト
75　10GY8/1明緑灰色細礫混粘土質シルト
76　2.5GY8/1灰色極細粒砂
(遺構埋土は省略)

第27図　地層断面図(Ｓ＝1/100)

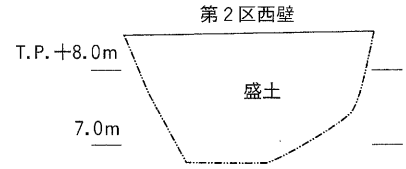
18　久宝寺遺跡(2003－305)の調査

1．調査名：事務所建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市北久宝寺３丁目10番

3．調査期間：平成15年12月２日

4．調査方法：防火水槽部分(第１区)に約３×３ｍ、建物基礎部分(第２区)に2.0×2.0ｍの調査区２箇所を設定し、現地表下1.7ｍまでの地層の確認を行った。



第28図　地層断面図(Ｓ＝1/100)

5．調査概要：第１区では現地表下約1.7ｍ(T.P.＋6.8ｍ前後)まで掘削を行ったが、すべて盛り土内であり、旧地層を確認することはできなかった。この結果と、周辺地形の状況から見て調査地の全体が盛土されているようであり、第２区については第１区より工事掘削深度が浅いことから掘削を中止した。

6．まとめ：調査の結果、現地表下1.7ｍ(T.P.＋6.8ｍ)前後の地層について、調査地及び周辺地(中央環状線沿い)は、全体に盛り土を行っていることがわかった。　(高萩千秋)

19　郡川遺跡(2002－304)の調査

1．調査名：特別養護老人ホーム建設工事に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市郡川３丁目80、81

3．調査期間：平成15年９月26日

4．調査方法：調査地内に2.0×2.0ｍの調査区を３箇所設定し、北から第１～３区と称した。掘削は現地表(T.P.＋18ｍ前後)下約1.5ｍまで実施した。

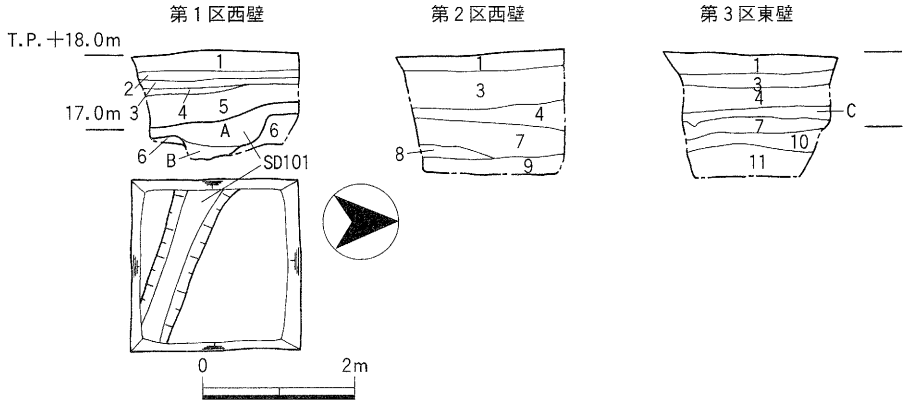
5．調査概要：調査地の現況は畑作地で、現地表から0.3ｍ前後は近・現代の作土層(第１層)となっている。以下、各調査区の様相を記述する。

【第１区】第１層の作土層を排除すると、３層(第２～４層)に分層できる0.3ｍ前後のシルト層が堆積する。遺物は含まれない。次の第５層はやや堅く締まった黒褐色を呈する砂礫混じりシルトで、時期不明の土師器片が少量含まれる。そして、その下層にあたるＡ層を掘削したところ、本層が次の第６層上面(T.P.＋17ｍ前後)から切り込まれる遺構内埋土であることが判明した。そこで、第６層上面において精査を行った結果、北西－南東方向に伸びる弥生時代後期に比定される溝１条(ＳＤ101)を検出した。規模は幅0.6～0.7ｍ、深さ0.5ｍ前後を測る。埋土は上層(Ａ層)－N2/0黒色粘土質シルト、下層(Ｂ層)－N3/0暗灰色シルトの２層に分層できる。遺物は上層から畿内第Ⅴ様式に比定される甕の体部片をはじめ、小破片が少量出土した。

【第２区】現地表下１ｍ前後(T.P.＋17ｍ前後)までは第１区とほぼ同じ様相を呈するが、それ以下の約0.7ｍ間は砂質シルト～礫層で構成される水成層となり、湧水も著しい。

【第３区】本調査区も現地表下0.7ｍ前後までは第１・２区とほぼ同じ様相を呈する。しかし、次のＣ層は0.15ｍ前後を測る堆積層で、古墳時代前期の古式土師器片が若干含まれ、全体に土壌化が窺える。それより約0.9ｍ間は第２区とよく似た層序で、砂質シルト～礫層の水成層となる。

6．まとめ：第１区では弥生時代後期の遺構が顕著に確認できたが、南側に近接する第２区および第３区では同レベル(T.P.＋17m前後)で、水成層という河川堆積を想定させる地層を検出した。この要因としては、当地が扇状地に位置していることが挙げられる。次に、第３区で検出した古墳時代前期の包含層とその下層に堆積する水成層について第１区との調査成果と勘案すると、弥生時代後期以降の洪水等が治まり安定した土地条件下において、古墳時代前期の生活面が築かれたことが推測される。　（岡田）



第29図　地層断面・平面図(Ｓ＝1/100)

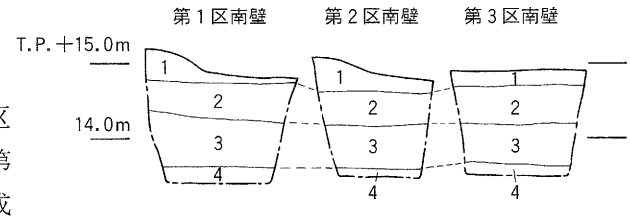
20　郡川遺跡(2003－219)の調査

１．調査名：宅地造成に伴う遺構確認調査

２．調査地：八尾市教興寺１丁目38番地

３．調査期間：平成15年10月１日

４．調査方法：人孔部分に規模2.0×2.0mの調査区を３箇所設定し調査を行った。北側から第１区～第３区と呼称する。今回の調査地では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値（調査地の南西側道路上T.P.＋15.0m）を使用した。



第30図　地層断面図(Ｓ＝1/100)

５．調査概要：現地表下約1.8mまで機械と人力を併用し掘削した。その結果、４枚の堆積を確認した。１層は盛土で、上面はT.P.＋14.8～15.2mを測る。２層は7.5Y4/6褐色粘土質粗粒シルト、３層は10YR4/4褐灰色細粒シルト～細粒砂、４層は10YR3/3暗褐色粘土で、２層と３層は、流水堆積である。

６．まとめ：流水を示す堆積を確認したが、遺構の検出および遺物の出土はなかった。　（西村）

参考文献

・原田昌則　1999「Ⅲ　郡川遺跡(第２次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告64』(財) 八尾市文化財調査研究会

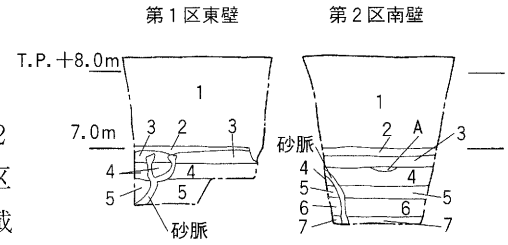
21　佐堂遺跡(2003－291)の調査

1．調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査

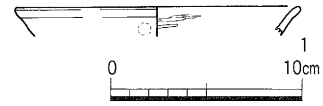
2．調査地：八尾市佐堂町２丁目16番３・17番３

3．調査期間：平成15年11月12日

4．調査方法：建物基礎部分に規模2.0×2.0ｍの調査区を２箇所の設定し調査を実施した。東側を第１区、西側を第２区と呼称する。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値（調査地の南東側道路上T.P.＋8.0ｍ）を使用した。



第31図　地層断面図(Ｓ＝1/100)



第32図　出土遺物実測図(Ｓ＝1/4)

5．調査概要：【第１区・第２区】現地表下約2.2ｍまでに７層の堆積を確認した。１層は盛土で、現地表面はT.P.＋8.2ｍ前後を測る。２層は10BG4/1暗青灰色粗粒砂混粘土の旧耕作土である。３層は5Y4/1灰色細粒砂混粘土、４層は10YR4/4褐色粘土質細粒シルトで、４層上面から切り込む遺構[埋土Ａ10YR6/8明黄褐色粗粒砂]を第２区の南壁で確認したが、遺物の出土はなかった。５層は10YR6/1褐灰色細粒シルト質粘土で、上面は土壌化しており、層内からは瓦器椀（１）の破片が出土した。上面で調査を行ったが遺構の検出はなかった。６層は10YR5/2灰黄褐色粘土質細粒シルト、７層は5Y6/1灰色細粒砂と粗粒シルトのラミナで流水堆積である。また、両調査区では、縦に伸びる砂層[10YR7/1灰白色細粒砂]を確認した。

6．まとめ：第２区の南壁では４層上面から切り込む遺構を確認したが、遺物の出土がなかったため、詳しい時期は不明である。しかし、下層の５層内から瓦器椀の破片が出土していることから、４層上面検出遺構は中世以降のものである可能性が高いと考える。また、縦に伸びる砂層は、地震の時の液状化による砂脈と思われ、時期は近代以前と推定される。（西村）

参考文献

・原田昌則　1996「13. 佐堂遺跡(第１次調査)」『平成7年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会

22　太子堂遺跡(2003－72)の調査

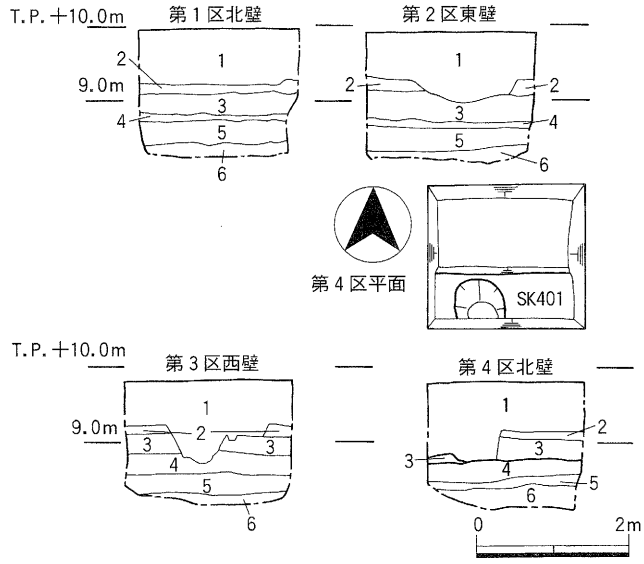
1．調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市南太子堂４丁目81番及び80番２の一部

3．調査期間：平成15年６月５日

4．調査方法：人孔部分に規模2.0×2.0ｍの調査区を４箇所設定し調査を行った。南西側を第１区北西側を第２区、北東側を第３区、南東側を第４区と呼称する。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値（調査地の北側道路上T.P.＋9.8ｍ）を使用した。

5．調査概要：第１区～第４区では、現地表下約1.6ｍまでに６層の堆積を確認した。１層は盛土。２層はN2/0黒色粗粒砂混粘土で、旧耕作土である。３層は5BG5/1青灰色粗粒砂混粘土～2.5Y5/2暗灰黄色細粒シルト質粘土で、礫がまばらに混入する。４層は2.5Y6/1黄灰色粗粒シルト質粘土で、



第33図　地層断面図・平面図(Ｓ＝1/100)

第３区と第４区では遺物が出土している。５層は10YR4/6褐色細粒砂混粘土で、第１区と第２区では遺物が出土している。６層は10YR4/1褐灰色細粒砂～7.5YR7/1明褐灰色細粒シルトの水成層である。【第１区】遺構の検出はなかったが、第５層からは丸瓦（１）が出土した。１は凸面に布目を施す。【第２区】遺構の検出はなかったが、５層からは土師器の羽釜（２）が出土した。また、上げ土内からは土師器の高杯（３）・須恵器の杯（４・５）の破片が出土した。【第３区】４層からは土師器の破片が出土した。【第４区】４層上面で土坑１基（ＳＫ401）検出した。ＳＫ401の規模は、長径0.6m、短径0.5m、深さ0.2mを測る。埋土は10YR4/2灰黄褐色細粒砂混粘土で、鎌倉時代初頭頃の瓦器椀（６）が出土した。６は断面三角形の高台がつく。内面にはミガキを施す。見込みのミガキは平行線状である。

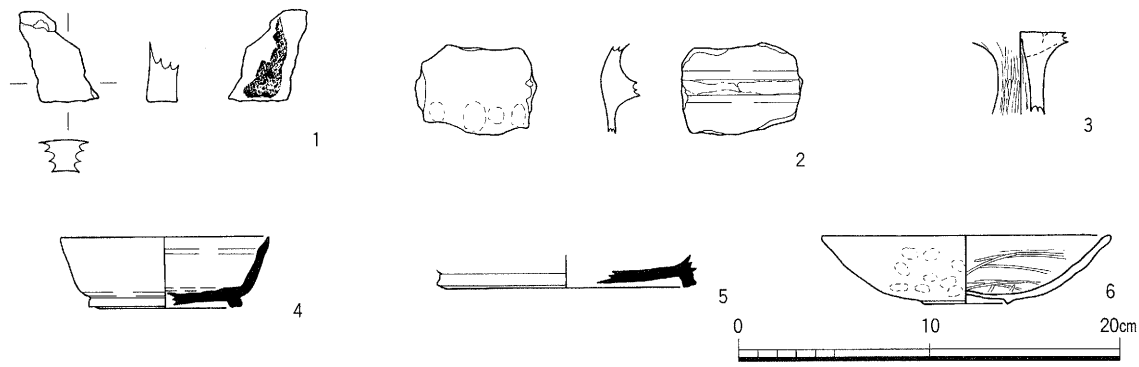
６．まとめ：第４区では鎌倉時代の遺構を検出したことから、同時代の居住域が存在していたことが判明した。また、各調査区で確認した地層のうち、T.P.＋8.3～8.8mに存在する地層については攪拌をうけており、特に第１区では瓦の破片が、第２区では地層の特定はできないものの奈良～平安時代頃に比定できる須恵器の破片が出土していることから、同時代の遺構の存在が示唆される。（西村）

参考文献

・成海佳子　2000「Ｘ太子堂遺跡（第９次調査）」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告65』（財）八尾市文化財調査研究会

・西村公助　2000「Ｖ太子堂遺跡（第７次調査）」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告66』（財）八尾市文化財調査研究会

・高萩千秋　2000「Ⅵ太子堂遺跡（第８次調査）」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告66』（財）八尾市文化財調査研究会



第34図　出土遺物実測図（Ｓ＝1/4）

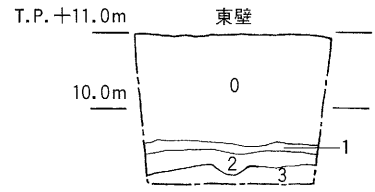
23　田井中遺跡（2003－224）の調査

１．調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

２．調査地：八尾市田井中２丁目48番の１

３．調査期間：平成15年10月14日

４．調査方法：調査地内に2.0×2.0mの調査区を３箇所設定し、北から第１～３区と称した。掘削は現地表（T.P.＋18m前後）下約1.5～2.0mまで実施した。



第35図　地層断面図（Ｓ＝1/100）

５．調査概要：第１・２区ともに現地表（T.P.＋11.0m）下約2.0mまで、現代の産業廃棄物によって撹乱されている（第０層）。第３区については現地表下1.5m前後で層厚0.1m前後を測る近・現代の作土層（第１層）、第２層－5B5/1青灰色シルト（水成層）、第３層－10BG4/1暗青灰色粘土質シルトとなる。本調査では遺構・遺物の検出はなかった。

６．まとめ：今回の調査地点付近においては既往の調査例がなく、考古学的に未解明な地帯である。したがい、今後周辺における調査の累積を要する。（岡田）

24　東郷遺跡(2003－50)の調査

1．調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市光町２丁目39

3．調査期間：平成15年５月14日

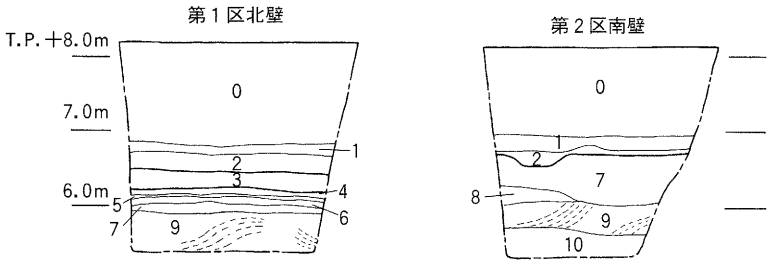
4．調査方法：調査地東部に2.5×2.5mの調査区を２箇所(北側－第１区、南側－第２区)を設定し、現地表(T.P.＋8.2m前後)から約2.5mの掘削を実施した。なお、調査地内には既存の建物基礎(コンクリート等)が盛土下に部分的に残存しており、とくに西部においては掘削不能な関係から今回は東部を中心に遺構確認調査を実施することとなった。

5．調査概要：【層序】第０層－盛土および撹乱(層厚0.5m前後を測る盛土の下層には、既存建物基礎およびその建設時に伴う撹乱が層厚0.5m前後堆積する)、第１層－5B3/1暗青灰色シルト(近・現代の耕作土にあたる)、第２層－7.5YR7/4にぶい橙色シルト(下層の第３層とともに酸化鉄分を多量に含む)、第３層－7.5YR3/3暗褐色シルト(管状のマンガンが確認できる)、第４層－10YR4/3にぶい黄褐色シルト、第５層－N3/0暗灰色粘土質シルト(植物遺体がラミナ状に見られる)、第６層－7.5YR5/6明褐色粗粒砂(第２区には存在しない。本層以下第10層までは河川あるいは氾濫に伴なう堆積層となる)、第７層－7.5YR7/1明褐灰色細粒砂、第８層－7.5YR7/3にぶい橙色砂質シルト(第２区にブロック状に堆積する)、第９層－5YR8/1灰白色細粒砂(ラミナが顕著に認められる)、第10層－5YR6/1褐灰色中粒砂～粗粒砂(第１区では、本層まで掘削が達せず確認はできなかった)。

6．まとめ：今回の調査結果と、当地点の南側において昭和60年度に実施された調査(ＴＧ85－20)成果とを層位的に照合すると、第２層が中世末期～近世、第３層が古墳時代前期～中世に比定されるものであることが言える。南側の調査においては、第６層あるいは第７層といった水成層上面で、古墳時代前期の方形周溝墓７基、土壙墓１基といった墓域が検出されている。今回の調査地点では遺構および遺物を検出することはできなかったが、第１区で確認した第３層にあたるところが、当該期の堆積層であると推測される。第７～９層に見られた氾濫性の砂層の堆積から勘案すると、当地一帯においては古墳時代前期頃にそれまでの不安定な土地条件から安定した地盤となって以降、集落が営まれるようになることが考えられる。それはまた、当地周辺における既往の調査成果からも窺うことができる。　　(岡田)

参考文献

・原田昌則　1987「Ⅲ　東郷遺跡(第20次調査)発掘調査概要報告」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要　昭和61年度』(財)八尾市文化財調査研究会報告13　(財)八尾市文化財調査研究会



第36図　地層断面図(Ｓ＝1/100)

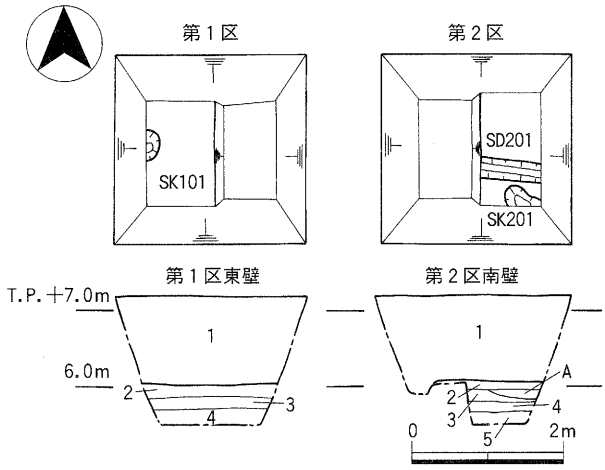
25　東郷遺跡(2003－40)の調査

1．調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市光町２丁目16，17

3．調査期間：平成15年６月16日

4．調査方法：建物基礎部分に規模2.5×2.5ｍの調査区を２箇所設定し調査を行った。北側を第１区、南側を第２区と呼称した。レベル高は、調査地の北東約100ｍにある大阪府下水道の標高値(T.P.＋7.908m)を使用した。



第37図　地層断面図・平面図(Ｓ＝1/100)

5．調査概要：現地表下約1.7ｍまで機械と人力を併用し掘削した。北側を第１区、南側を第２区と呼称する。上面はT.P.＋7.2m前後を測る(なお、今回の調査地の南側道路上はT.P.＋7.434ｍを測る。)。以下約1.7ｍまでに５層の堆積層を確認した。１層は盛土。２層は7.5Y5/2灰褐色粘土質細粒シルトで、N5/0灰色粘土のブロックが混じる。３層は10YR6/1褐灰色粘土質細粒シルトである。４層は10YR4/6褐色粘土。５層は10YR4/1褐色粘土である。

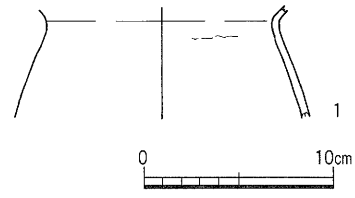
【第１区】T.P.＋6.0m前後の２層上面で土坑１基(ＳＫ101)を検出した。ＳＫ101の西側は調査区外に至るため規模などの詳細は不明である。検出した長径は0.4m、短径は0.2m、深さ0.15ｍを測る。埋土は10YR3/3暗褐色細粒砂混粘土で、10YR5/6黄褐色粘土のブロックが混じり、炭を含んでいる。古墳時代初頭～前期(庄内式～布留式)の古式土師器の破片が少量出土した。1は弥生土器のＶ様式系の甕である。表部磨耗の為調整不明瞭であるが、内面はハケ、外面はタタキを施していたと思われる。

【第２区】T.P.＋6.0m前後の２層上面で土坑１基(ＳＫ201)、溝１条(ＳＤ201)を検出した。

ＳＫ201の南側は調査区外に至るため規模などの詳細は不明である。検出した長径は0.5m、短径は0.3ｍ、深さ0.15ｍを測る。埋土は10YR4/4褐色粗粒シルト質粘土で、N4/0灰色粘土のブロックが混じり、炭を含んでいる。古墳時代初頭～前期(庄内式～布留式)の古式土師器の破片が少量出土した。

ＳＤ201の東側と西側は調査区外に至るため規模などの詳細は不明である。検出した幅は0.3m、深さ0.15ｍを測る。埋土は2.5Y4/6オリーブ褐色細粒砂混粘土で、10YR4/4褐色粘土のブロックが混じる。古墳時代初頭～前期(庄内式～布留式)の古式土師器の破片が少量出土した。

また、この調査区では３層上面から切り込む落ち（遺構？埋土2.5Y4/2暗灰黄色粘土にN4/0灰色粘土のブロックが混じる）を南壁で検出した。調査外に至るため遺構の詳細は不明である。検出した地層から、古墳時代初頭以前の遺構である可能性が高いと考えられる。



第38図　出土遺物実測図(Ｓ＝1/4)

6．まとめ：今回の調査ではT.P.＋6.0m前後で古墳時代初頭～前期の遺構を検出した。各遺構は部分的な検出であり、全容は不明である。しかし、東隣や西隣で行われている過去の調査で検出している遺構と同じ時期の遺構を検出したことから、今回の調査地は居住域であった可能性がある。

（西村）

参考文献

・森本めぐみ　2003「Ⅰ　東郷遺跡第56次調査(TG2000－56)」『八尾市立埋蔵文化財調査センター報告４　平成14年度』八尾市教育委員会　(財)八尾市文化財調査研究会

・高萩千秋　1983「第８章　東郷遺跡発掘調査概要報告　第７節　第８次調査」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概報1980・1981年度』(財)八尾市文化財調査研究会報告２　(財)八尾市文化財調査研究会

・高萩千秋　1989「Ⅰ　東郷遺跡発掘調査報告(第11次～第16次・第18次調査)」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告　昭和63年度』(財)八尾市文化財調査研究会報告17　(財)八尾市文化財調査研究会

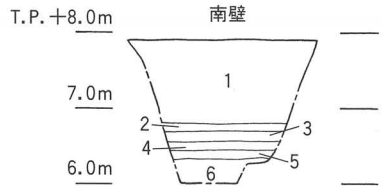
26　東郷遺跡(2003—234)の調査

1．調査名：個人住宅建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市東本町４丁目15－８

3．調査期間：平成15年10月28日

4．調査方法：半地下基礎部分（規模2.5×2.5m面積6.25m²）の調査を行った。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値(調査地の東側道路上T.P.＋8.0m)を使用した。



第39図　地層断面図(S＝1/100)

5．調査概要：現地表下約1.9mまで機械と人力を併用し掘削を行い、６枚の堆積層を確認した。１層は盛土で、上面はT.P.＋7.9m前後を測る。２層は5B2/1青黒色細粒砂混粘土で旧耕作土である。３層は10BG5/1青灰色粗粒砂混粘土。４層は10BG6/1青灰色粘土で、N2/0黒色粘土のブロック混入している。上面は攪拌を受るが、遺構の検出および遺物の出土はなかった。５層は5B3/1暗青灰色シルト質粘土、６層は5B6/1青灰色細粒シルトである。

6．まとめ：T.P.＋6.5m前後の４層は、周辺の調査結果から、古墳時代以降の耕作に伴うものである可能性が高いと考える。（西村）

参考文献

・西村公助　1995「Ⅳ　東郷遺跡(第46次調査)」『東郷遺跡　財団法人八尾市文化財調査研究会報告48』(財)八尾市文化財調査研究会

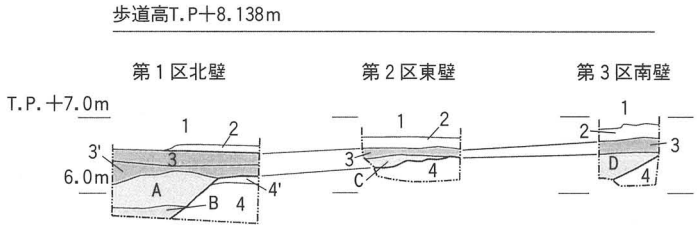
27　東郷遺跡(2003—315)の調査

1．調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市桜ヶ丘１丁目25番

3．調査期間：平成15年12月１日

4．調査方法：建物建築予定地に約２×２mの調査区を３箇所（第１～３区）設定し、道路面（T.P.＋8.1m前後）下1.7～2.5m前後までの地層の確認を行った。



第１区北壁		第２区東壁		第３区南壁	
1	盛土(客土)	1	盛土	1	盛土
2	暗茶灰色粘質シルト	2	乳灰茶色粘土	2	暗青灰色粘質シルト(旧耕土)
3	暗灰茶色シルト(炭化物を微量に含む)	3	暗茶灰色粘土混シルト(土師器片を少量含む)	3	暗褐灰色砂礫混じりシルト
3'	灰色細砂混シルト	4	灰色細砂	4	暗灰色砂礫混じり細砂
4	灰茶色粘土質シルト	C	暗灰茶色細砂混シルト(土師器片を少量含む)	D	暗灰褐色砂礫混じりシルト
4'	灰色細砂				
A	明茶灰色シルト質粘土				
B	茶灰色粘土				

第40図　地層断面図(S＝1/100)

5．調査概要：第１区は道路下約2.5m(T.P.＋5.6m前後)、第２区は道路下約2.1m（T.P.＋6.1m前後)、第３区は道路下約1.7m（T.P.＋6.6m前後）までの掘削をそれぞれ行った。その結果、T.P.＋6.6mまでは建物基礎により第３区ともすでに削平されていた。確認した第３層は古墳時代前期の遺物を含んだ層で、その下の第４層上面より切り込む遺構を検出した。第１区では溝状遺構、第２区では溝状遺構と柱穴、第３区では溝状遺構を確認した。遺物は第２区より古墳時代前期に比定される布留式甕の体部の小片を出土している。

6．まとめ：調査の結果、T.P.＋6.3～7.0mの地層には古墳時代前期の遺構面の存在がすべての調査区で確認された。既往調査では、古墳時代前期に比定される掘立柱建物跡を当調査地の東側で検出されており、居住域が西側にも広がっていることが改めて確認された。（高萩）

参考文献

・嶋村友子　1987「東郷遺跡22次発掘調査概要」『八尾市内遺跡昭和61年度発掘調査報告書Ⅱ』八尾市文化財調査報告15　昭和61年度国庫補助事業　八尾市教育委員会

・高萩千秋　1991「第３章　第24次調査」『東郷遺跡－第23次・第24次発掘調査報告－』(財)八尾市文化財調査研究会報告29　(財)八尾市文化財調査研究会

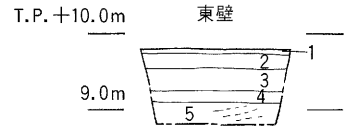
28　中田遺跡(2003－203)の調査

1．調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市中田２丁目43－1

3．調査期間：平成15年10月23日

4．調査方法：人孔部分(規模1.5×1.5m　面積2.25㎡)の調査を行った。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値(調査地の南西側道路上T.P.＋10.2m)を使用した。



第41図　地層断面図(S＝1/100)

5．調査概要：現地表下約1.0mまでに５層の堆積を確認した。１層は盛土で、２層はN3/0暗灰色粗粒砂混粘土の旧耕作土である。３層は5YR5/2灰褐色粘土質粗粒砂、４層は5Y6/1灰色粘土質細粒シルト、５層は10YR4/6褐色細粒砂～細粒シルトのラミナで、３層以下は自然堆積である。遺構の検出および遺物の出土はなかった。

6．まとめ：遺物の出土がなく、時期の決定は困難であるが、周辺において実施された調査成果から３～５層は中世以降の河川内の堆積物であったと思われる。　(西村)

参考文献

・成海佳子　1988「24　中田遺跡(第１次調査)」『八尾市文化財調査研究会年報　昭和62年度』(財)八尾市文化財調査研究会報告16　(財)八尾市文化財調査研究会

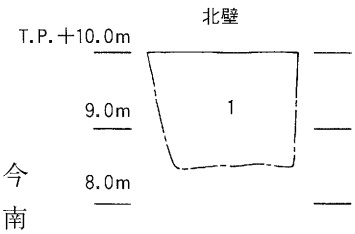
29　中田遺跡(2003－261)の調査

1．調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市中田２丁目12番２

3．調査期間：平成15年12月５日

4．調査方法：人孔部分(規模2.0×1.5m　面積3.0㎡)の調査を行った。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値(調査地の南東側道路上T.P.＋9.8m)を使用した。



第42図　地層断面図(S＝1/100)

5．調査概要：現地表下約1.5mまでに１層の堆積を確認した。１層は盛土で、産業廃棄物が混じっている。遺構の検出および遺物の出土はなかった。

6．まとめ：工事による掘削は盛土内でおさまる。このため、盛土以下、本来堆積している地層の確認はできなかった。　(西村)

参考文献

・1974『中田遺跡』中田遺跡調査報告Ⅰ　日本電信電話公社大阪東地区管理部地下線埋設工事に伴う調査　中田遺跡調査センター

・滝　斎　1999「３．中田遺跡(91－503)の調査」『八尾市内遺跡平成４年度発掘調査報告書Ⅱ』八尾市文化財調査報告28　平成４年度公共事業　八尾市教育委員会

30　西郡廃寺(2003－89)の調査

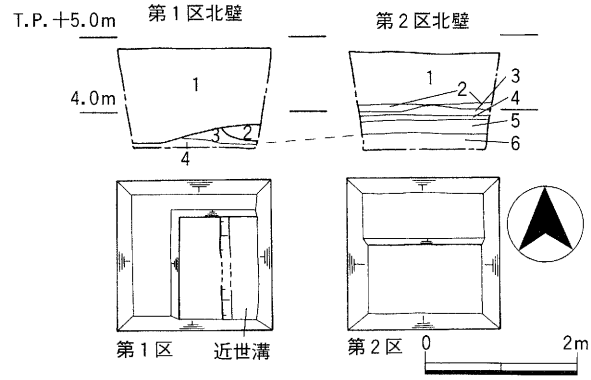
1．調査名：痴呆性高齢者グループホーム建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市泉町１丁目２、２－２、２－３

3．調査期間：平成15年６月18日

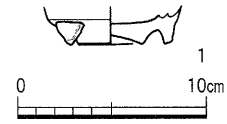
4．調査方法：建物基礎部分に2.0m四方の調査区を２箇所設定し調査を行った。レベル高は、八尾市発行の１/2500の地図に記載している標高値(調査地の北西側T.P.＋4.9m)を使用した。

5．調査概要：調査は、現地表下約1.3mまで機械と人力を併用し実施した。北側を第１区、南側を第２区とする。



第43図　地層断面図・平面図(Ｓ＝1/100)

【第１区】１層は盛土で、陶磁器の破片が多く含まれている。上面の標高はT.P.＋4.8m前後を測る。２層　10Y4/1灰色粗粒砂混粘土、２‘層　2.5Y6/1黄灰色粘土で両層は近世溝の埋土である。３層　5B5/1青灰色粗粒砂混粘土　5B5/1青灰色粘土のブロック混入である。中世の遺物包含層である。４層　2.5Y5/3黄褐色細粒砂と粗粒砂のラミナである。



第44図　第２区５層出土遺物実測図(Ｓ＝1/4)

【第２区】１層は盛土で、上面はT.P.＋4.8m前後を測る。２層は10YR4/4褐色細粒砂混粘土、３層は10YR3/1黒褐色細粒砂混粘土で、両層は旧耕作土である。４層は5B4/1暗青灰色細粒砂混粘土で、５層は10BG4/1暗青灰色粗粒砂混粘土でN3/0灰色粘土のブロックが混入する。５層からは鎌倉～江戸時代頃の遺物が出土した。１は近世の青磁の香炉で、三方向に突起がつく。６層は10YR5/2灰黄褐色細粒砂と粗粒砂のラミナである。

6．まとめ：今回の調査ではT.P.＋3.8m前後で中世から近世の遺物包含層(第１区の３層、第２区の５層)を確認した。このことから、近隣に同時期の遺構が存在している可能性が高いと思われる。(西村)

31　西郡廃寺(2002－367)の調査

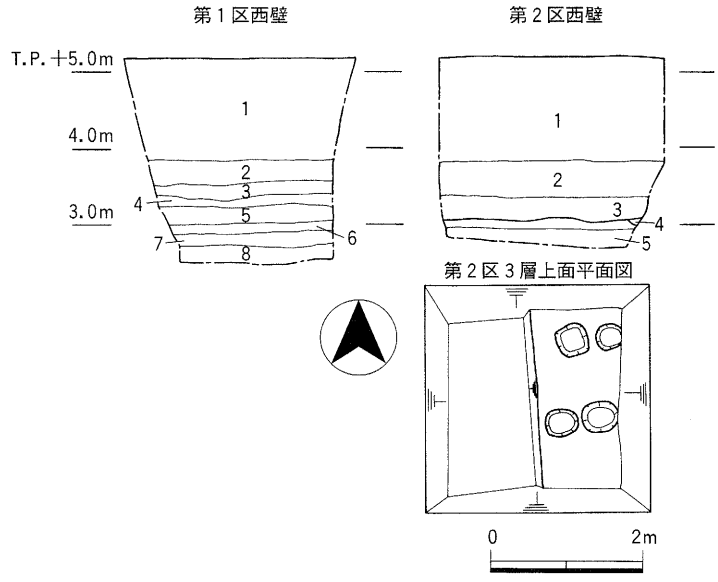
1．調査名：老人福祉施設増築に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市幸町６丁目21－3、24－1、24－4、31－4、31－5、31－10、33－1、33－2、33－3、34－3、36－1、36－2、37

3．調査期間：平成15年８月６日

4．調査方法：建物基礎部分に3.0m四方の調査区を２箇所設定し調査を行った。レベル高は、八尾市発行の1/2500の地図に記載している標高値(調査地の南西側T.P.＋4.8m)を使用した。

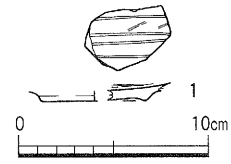
5．調査概要：調査は、現地表下約3.0mまで機械掘削と人力掘削を併用し実施した。南側を第１区、北側を第２区と呼称する。



第45図　地層断面図・平面図(Ｓ＝1/100)

【第１区】１層は盛土で、上面の標高は

T.P.＋5.2m前後を測る。２層は5B4/1暗青灰色粗粒砂混粘土、３層は5B6/1青灰色粗粒砂混粘土(10BG4/1暗青灰色粘土のブロックが混じる)で、土師器や須恵器の破片が少量出土した。４層は10BG6/1青灰色細粒砂混粘土。５層は10YR5/8黄褐色細粒砂混粘土でマンガンの斑点が全体的に確認できる。６層は10YR7/1灰白色粘土質細粒シルト。上面の標高はT.P.＋3.0mである。７層10YR6/1褐灰色粘土で、植物遺体を多く含む。８層は7.5YR6/1褐灰色細粒シルト質粘土である。６層上面で調査を行ったが遺構の検出および遺物の出土はなかった。



第46図　第２区２層出土遺物実測図(S＝1/4)

【第２区】１層は盛土で、上面はT.P.＋5.2m前後を測る。２層は5B4/1暗青灰色粗粒砂混粘土、３層は7.5Y4/1灰色粗粒砂混粘土（N5/0灰色粘土のブロックが混じる）で古墳時代後期～鎌倉時代の遺物の破片が少量出土した。うち図化したものは瓦器椀(１)で、内面見込みにミガキを施す。４層は10YR7/1灰白色粘土質細粒シルトで、上面は標高T.P.＋3.1mである。５層は10YR6/1褐灰色細粒シルト混粘質土である。４層上面で調査を行い、土坑を４基（ＳＫ201～204）検出した。

ＳＫ201の平面形状は隅丸の方形で、一辺0.4mを測る。断面形状は逆台形で、深さ約0.1mを測る。埋土は10Y5/2オリーブ灰色粘土質粗粒シルトで、遺物の出土はなかった。

ＳＫ202の平面形状は円形で、径約0.3mを測る。断面形状は逆台形で、深さ約0.1mを測る。埋土は10Y5/2オリーブ灰色粘土質粗粒シルトで、遺物の出土はなかった。

ＳＫ203・ＳＫ204の平面形状は楕円形で長径約0.42～0.47m、短径約0.36～0.4mを測る。断面形状は逆台形で、深さ約0.15mを測る。埋土は5Y5/2灰オリーブ色細粒砂混粘土で、遺物の出土はなかった。

６．まとめ：土坑については、出土遺物もないため、時期は不明である。しかし、今回の調査地の北側約30m地点に隣接する同遺跡第１次調査では、同規模の遺構がT.P.＋3.0～3.2m前後の地層から遺構が多数検出され、奈良～平安時代の掘立柱建物が存在していたことを確認している(高萩2000)。このことから、今回検出した土坑は同時代の遺構と考えることもできる。（西村）

参考文献

・高萩千秋　2000「20.　西郡廃寺遺跡第１次調査(NKT99－1)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会

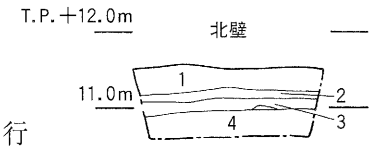
32　東弓削遺跡(2003－127)の調査

１．調査名：店舗建築に伴う遺構確認調査

２．調査地：八尾市大字東弓削131番地１

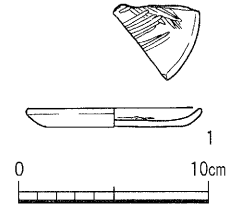
３．調査期間：平成15年７月16日

４．調査方法：合併浄化槽部分（規模4.5×2.5m面積11.25m²）の調査を行った。レベル高は、調査地の東約100mにある標高値(T.P.＋12.0m)を使用した。



第47図　地層断面図(S＝1/100)

５．調査概要：現地表下約1.0mまで機械と人力を併用し掘削を行なった。１層はN3/0暗灰色細粒砂混粘土で、上面はT.P.＋11.5mである。２層は10YR7/1灰白色粗粒砂混粘土。３層は10YR5/2灰黄褐色粗粒砂混細粒砂。４層は2.5Y6/1黄灰色細粒砂混粘土で、土師器の皿(１)が出土した。１は内面にミガキを施す。５層は2.5Y5/2暗灰黄色細礫混粘土。



第48図　出土遺物実測図(S＝1/4)

６．まとめ：今回の調査の第４層上面では畦畔を確認した。また、４層の上方は撹拌を受けていることから、水田が存在していたと考えられる。水田の時期は４層内から出土した遺物から鎌倉時代以降に比定できる。(西村)

33　東弓削遺跡(2003－150)の調査

1．調査名：保育園新築に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市八尾木３－23・３－24・３－26

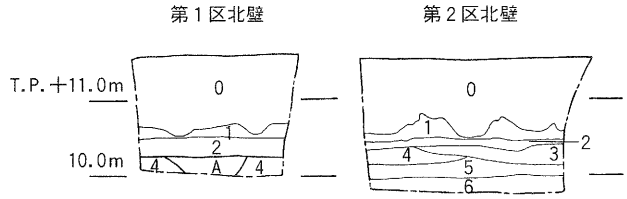
3．調査期間：平成15年９月４日

4．調査方法：調査地内に２ｍ×２ｍの調査区を北から第１区、第２区と称して２箇所設定し、掘削は現地表から約1.5～1.8mまで実施した。

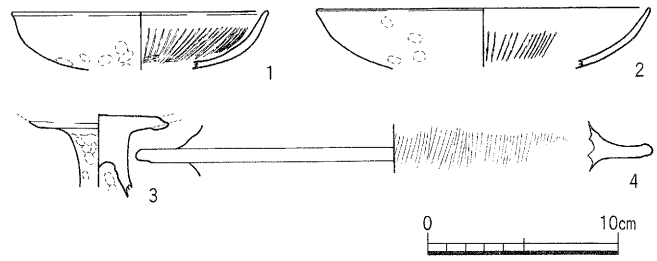
5.調査概要：【層序】両調査区ともに現地表から１ｍ前後は以前の建築物に伴なう盛土(第０層)で、その下に0.2m前後の旧耕作土(第１層)が堆積する。第２層－10BG6/1青灰色砂質シルト(中世の瓦器片が含まれる)、第３層－5B7/1明青灰色粗粒砂～細礫(氾濫性の堆積層で、湧水が認められる)、第４層－10YR6/6明黄褐色シルト(平安時代頃の土師器皿の破片が含まれる。第１区では本層上面から切り込む遺構の可能性が高い堆積層（Ａ層：7.5YR6/3にぶい褐色シルト）を確認した)、第５層－5Y4/1灰色粘土質シルト(飛鳥～奈良時代頃の遺物が含まれる)、第６層－7.5YR4/1褐灰色粘土質シルト(古墳時代の須恵器片が含まれる)。

【出土遺物】出土した遺物の中で図化できたものは、第２区の第５層から飛鳥時代に比定される杯２点(１・２)、高杯１点(３)、羽釜１点(４)の４点ですべて土師器製である。１・２は、ともに緩やかに内彎する体部を有するが、口縁端部については１が僅かに外折し、２はそのまま丸くおさまるといった相違がある。調整はいずれも内面が放射状のヘラミガキ、外面がユビオサエである。色調はいずれも褐灰色を呈する。３は小振りの高杯と思われ、杯底部と口縁部の境目に接合時のもと考えられる凸帯状のものが残る。脚柱部の内外面にはユビオサエの痕が顕著に残る。色調は灰褐色を呈する。４は鍔部のみの残存で、鍔部そのもはヨコナデであるが、体部との接合面にあたるところにはハケナデが見られる。胎土には雲母・角閃石が見られるほか、砂粒が多く含まれる。色調は茶灰色を呈する。以上の遺物は、飛鳥時代に属するものと考えられる。

6．まとめ：本調査地の北側にあたる市道内では、平成６年度に八尾市教育委員会によって公共下水道工事に伴う調査が実施されている。その調査結果を見ると、層位的には今回の調査とほぼ同じ様相を呈しており、第２層に相当するところでは中世の溝状遺構が確認されている。さらに遺物では古墳時代後期、奈良時代末～鎌倉時代にかけてのものが出土しており、今回の調査と合致している。また、同教育委員会の調査では今回の調査の最終深度よりさらに下層において、弥生時代中期後半の遺物包含層が確認されている。これらのことから当地一帯は、弥生時代中期後半以降から中世にかけて比較的安定した土地条件であったことが窺われる。(岡田)



第49図　地層断面図(Ｓ＝1/100)



第50図　第２区第５層出土遺物実測図(Ｓ＝1/4)

参考文献

・道　斎　1995「６.東弓削遺跡(93－298)の調査」『八尾市内遺跡平成６年度発掘調査報告書Ⅱ』八尾市文化財調査報告32　平成６年度公共事業　八尾市教育委員会

34　東弓削遺跡(2003－239)の調査

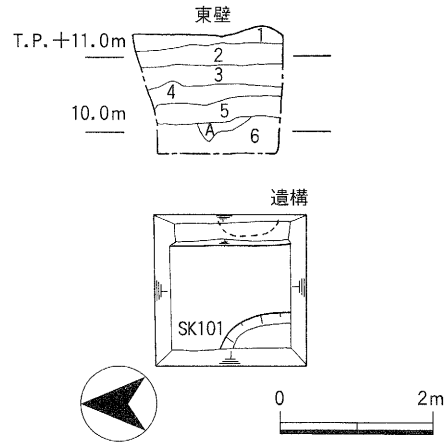
1．調査名：通信用鉄塔建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市大字都塚142－1番地

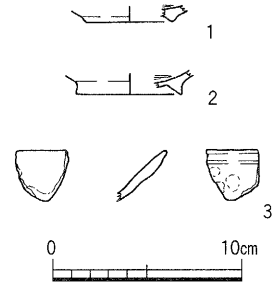
3．調査期間：平成15年10月10日

4．調査方法：通信用鉄塔部分（規模2.0×2.0m面積4.0m²）の調査を行った。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値(調査地の南西側道路上T.P.+13.0m)を使用した。

5．調査概要：現地表下約1.6mまでに6枚の地層を確認した。1層は10YR5/1褐灰色細粒砂混粘土で、上面はT.P.+11.25mを測る。2層7.5YR7/2明褐灰色粗粒シルト混粘土、層10YR4/4褐色細粒砂混粘土、4層10YR6/1褐灰色細粒シルト質粘土、5層2.5Y5/6黄褐色細粒砂混粘土である。6層は5B5/1青灰色粘土で、上面から切り込む遺構(ＳＫ101)を検出した。ＳＫ101の埋土はＡ　2.5Y5/1黄灰色細粒砂混粘土の単一層で、出土遺物はなかった。遺構の時期は不明であるが、4層からは土師器が出土していることから、平安時代以前のものと思われる。出土遺物は、2層から瓦器椀(1)が、3層から瓦器椀(2)が、4層から土師器杯(3)が出土した。1は「ハ」の字にひらく低い高台が貼り付く鎌倉時代のものと思われる。2は断面三角形の高い高台が貼り付く平安時代後期頃のものと思われる。3は平安時代のものと思われる。



第51図　地層断面図・平面図(Ｓ＝1/100)



第52図　出土遺物実測図(Ｓ＝1/4)

6．まとめ：今回の調査ではT.P.+10.1～10.2m前後で鎌倉時代以前の遺構を検出した。また、4層の上方は、撹拌を受けており、北側では畦畔状の高まりを確認した。このことから4層上面には鎌倉時代頃の水田が存在していたと思われる。（西村）

35　水越遺跡(2002－343)の調査

1．調査名：知的・身体障害者授産施設建設に伴う遺構確認調査

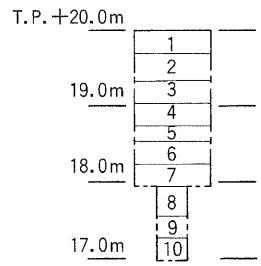
2．調査地：八尾市水越２－81、82

3．調査期間：平成15年８月11日

4．調査方法：調査地内に2.5×2.5mの調査区を北から第１～４区と称して計４箇所設定し、現地表(T.P.+20m前後)から約２mまでの掘削を実施した。なお、第４区については工事の規模から現地表から４mまでの調査を行った。

5．調査概要：現地表から0.3m前後は現代の耕作土(第１層)、第２層－灰褐色系シルト(第４区では中世頃の土師器の小破片を含む)、第３層－暗褐色系のシルト(土壌化を想起させるような淘汰の悪い堆積層)、第４層－褐色～灰褐色系砂礫混じりシルト、第５層－黄橙色系細粒砂～中粒砂(氾濫性の水成層、第１区では弥生時代後期に比定される甕の小破片を検出した)、第６層－黄橙色～黄褐色系砂礫混じり粘土質シルト、第７層－オリーブ色系粘土質シルト、第８層－にぶい黄橙色砂礫混じりシルト、第９層－明青灰色粘土質シルト、第10層－暗青灰色シルト～砂質シルト。

6．まとめ：今回の調査では遺構が検出されなかったが、第１区の水成層から出土した弥生時代後期の土器片は、近隣に該期の河川の存在を示唆する。（岡田）



第53図　地層模式図
(Ｓ＝1/100)

36　水越遺跡(2003－233)の調査

1．調査名：個人住宅建設工事に伴う遺構確認調査

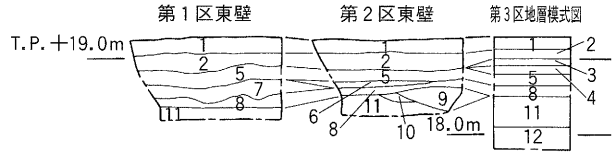
2．調査地：八尾市服部川３丁目９－２、10－３、10－４、164－３

3．調査期間：平成15年11月26日

4．調査方法：建設予定地内に２m四方の調査区を２箇所(第１区・第２区)、南北1.5m×東西２mの調査区(第３区)を１箇所の計３箇所の調査区を設定し、工事深度に準じて現地表(T.P.＋約19.2m)下約1.0～1.5mまでの掘削を行った。

5．調査概要：【層序】現地表から第１層－10YR3/1黒褐色シルト(現代の作土層)、第２層－10YR5/6黄褐色砂礫混じりシルト、第３層－N6/0灰色砂質シルト、第４層－5PB7/1明青灰色砂質シルト、第５層－10YR4/4褐色シルト、第６層－2.5Y7/4浅黄色粘土質シルト、第７層－2.5Y5/1黄灰色砂質シルト、第８層－2.5Y7/4浅黄色粘土質シルト、第９層－N7/0灰白色細粒砂～中粒砂(第２区で確認した流路を示唆する堆積層である)、第10層－N3/0暗灰色シルト、第11層－N2/0黒色粘土質シルト、第12層－5PB4/1暗青灰色極粗粒砂～細礫(第３区で確認した。径５～10㎜程の礫と植物炭化物を含む)の計12層を確認した。

6.まとめ：周辺における既往の調査では、縄文時代晩期のピット、弥生時代後期の居住域、古墳時代後期～奈良時代にかけての河川跡が検出されている。これらの調査成果と照合すると、今回の調査で確認した第11層が縄文時代晩期および弥生時代後期、第２～５層が古墳時代後期～奈良時代にかけての河川にそれぞれ対応するものと推定される。　(岡田)



第54図　地層断面図(S＝1/100)

37　矢作遺跡(2003－270)の調査

1．調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市高美町６丁目112番1

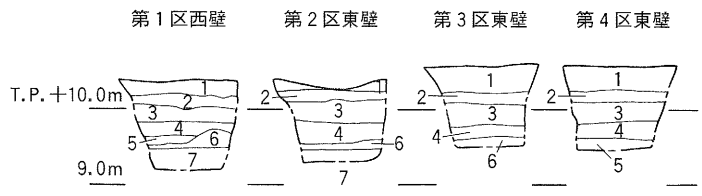
3．調査期間：平成15年11月21日

4．調査方法：人孔部分(規模2.0×2.0m面積4.0㎡)４箇所の調査を実施した。北側から南へ第１区～第４区と呼称する。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値（調査地の南側道路上T.P.+11.0m）を使用した。

5．調査概要：【第1～４区】現地表下約1.2mまでに７層の堆積を確認した。１層は盛土で、現地表面はT.P.+10.4～10.6m前後を測る。２層は旧耕作土で、厚み約0.15～0.2mを測る。３層10YR7/3にぶい黄橙色粗粒砂混粗粒シルト、４層10YR6/1褐灰色細粒砂混粗粒シルト、５層10YR7/1灰白色粗粒シルトと細粒シルトのラミナ、で、３～５層は砂層の流水堆積である。６層は10YR5/1褐灰色細粒砂混粘土で、上面は撹拌をうけており、第１区では畦畔状の高まりを確認した。７層は2.5Y4/1黄灰色細粒砂混粘土で礫が混じる。

遺物は、第１区のあげ土から古墳時代中期以降の土師器の破片が極少量出土した。

6.まとめ：６層上面は水田と思われるが、遺物の出土が少なく、時期は決定できなかった。しかし、周辺の調査結果から、平安時代以降に比定できると考える。　(西村)



第55図　地層断面図(S＝1/100)

38　弓削遺跡(2003－195)の調査

1．調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

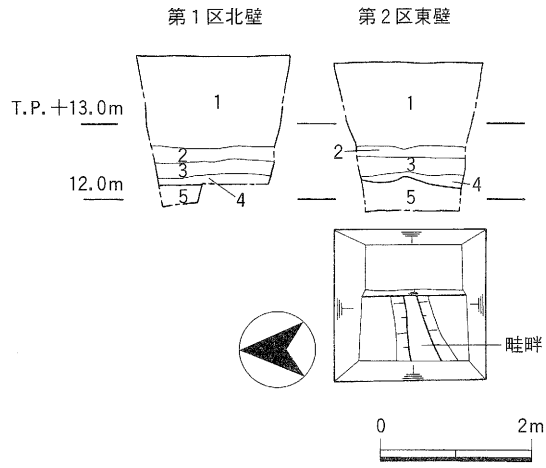
2．調査地：八尾市志紀町南２丁目49

3．調査期間：平成15年10月24日

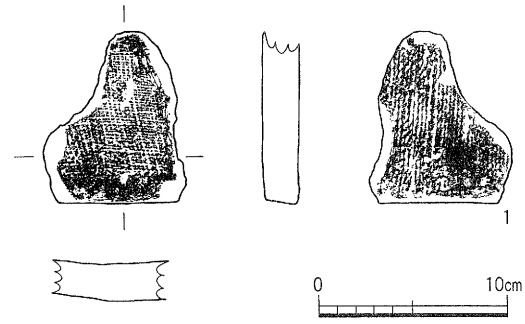
4．調査方法：人孔部分に規模2.0×2.0mの調査区を２箇所設定し調査を行った。北側を第１区、南側を第２区と呼称した。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値(調査地の南東側道路上T.P.+13.6m)を使用した。

5．調査概要：【第１区】現地表下約2.0mまでに５層の堆積を確認した。１層は盛土で、２層はN2/0黒色細粒砂混粘土の旧耕作土である。３層は5B5/1青灰色細粒砂混粘土、４層5BG5/1青灰色粘土である。５層は7.5YR4/3褐色細粒砂混粘土（炭化物含む）で上面は撹拌をうける。層内からは土師器・須恵器・黒色土器の破片が少量出土した。【第２区】現地表下約2.0mまでに第１区と同様、５層の堆積を確認した。５層上面は撹拌をうけており、土師器の破片が少量出土した。上面では、東西方向に伸びる畦畔を検出した。下幅0.5～0.8m、高さ0.05mを測る。また、上げ土のため出土地層の特定はできないが、平瓦(１)の破片が出土した。凹面に布目、凸面に縄目を施す。

6．まとめ：第２区で検出した畦畔は、水田に伴うものと推定され、出土遺物から、平安時代以降のものである可能性が高いと思われる。（西村）



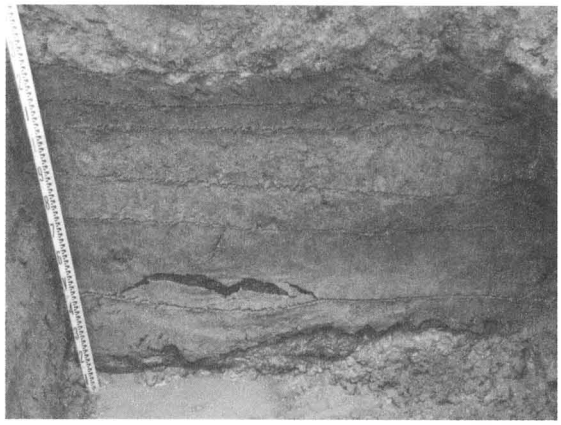
第56図　地層断面図・平面図(S＝1/100)



第57図　出土遺物実測図(S＝1/4)

図版1　老原遺跡（2002―442）の調査　佐堂遺跡（2002―202）の調査　成法寺遺跡（2002―2）の調査　東郷遺跡（2002―426）の調査

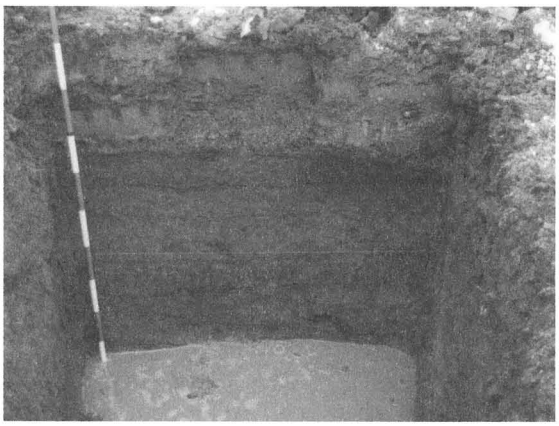
1　老原2002-442　調査地（南東から）



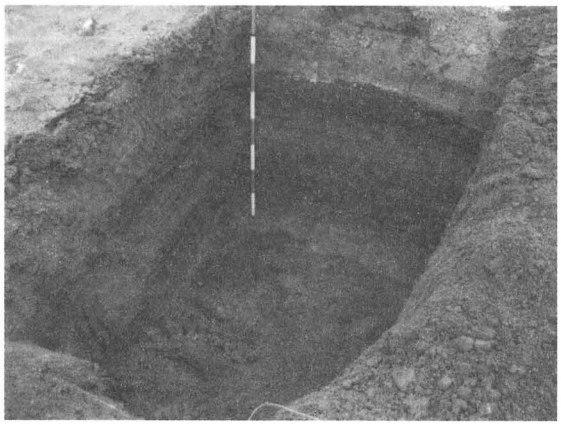
1　老原2002-442　西壁

2　佐堂2003-202　調査地周辺（北西から）

2　佐堂2002-202　第１区全景（西から）

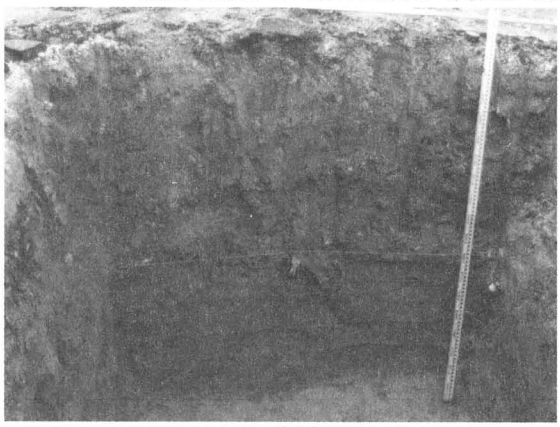


3　成法寺2002-2　第１区北壁



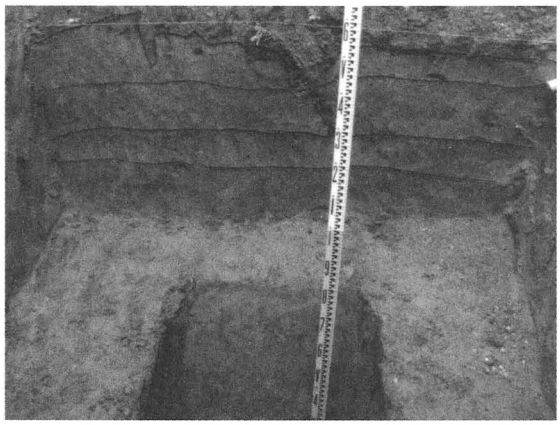
3　成法寺2002-2　第２区東壁（南西から）

4　東郷2002-426　調査地周辺（北東から）

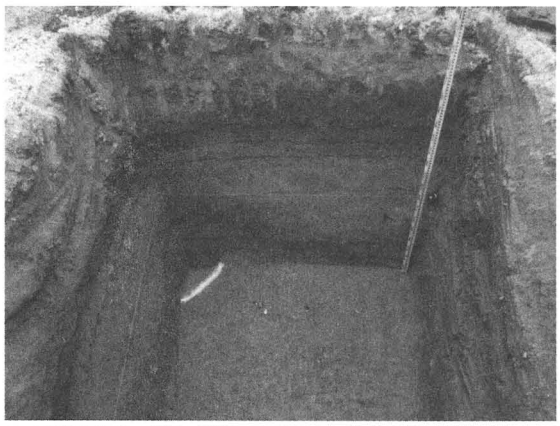


4　東郷2002-426　第２区西壁

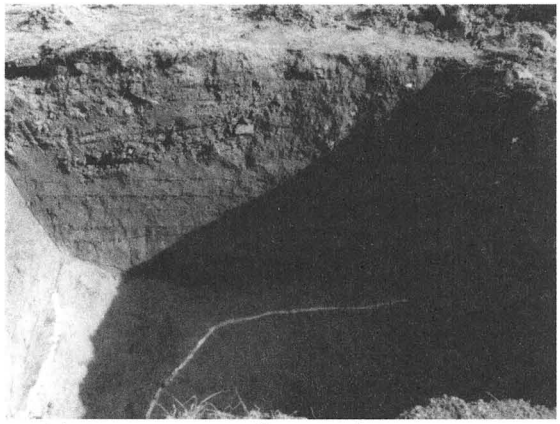
図版2　東郷遺跡（2002―426）の調査　東郷遺跡（2002―345）の調査　東郷遺跡（2002―479）の調査



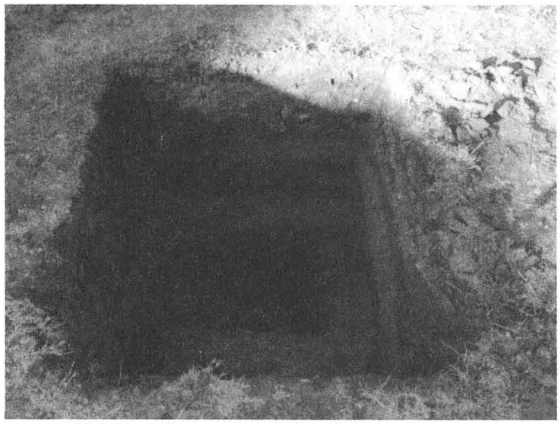
4　東郷2002-426　第２区下層確認（東から）



4　東郷2002-426　第３区全景（南から）

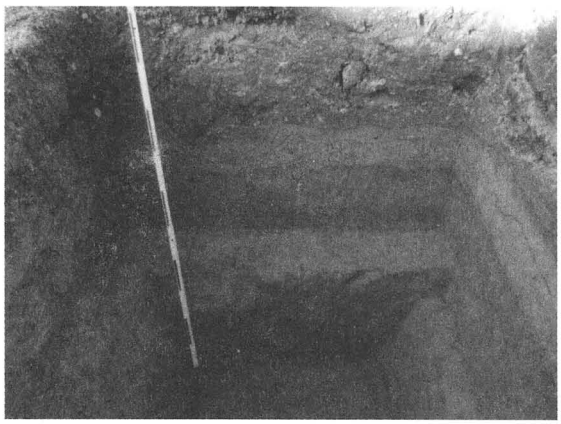


5　東郷2002-345　１区第１面（南から）



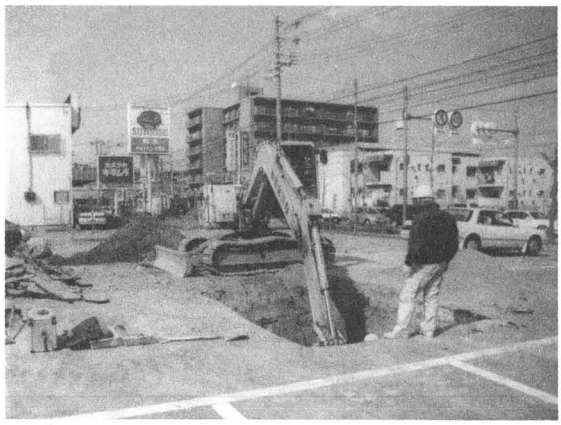
5　東郷2002-345　２区下層（南から）

5　東郷2002-345　２区東壁



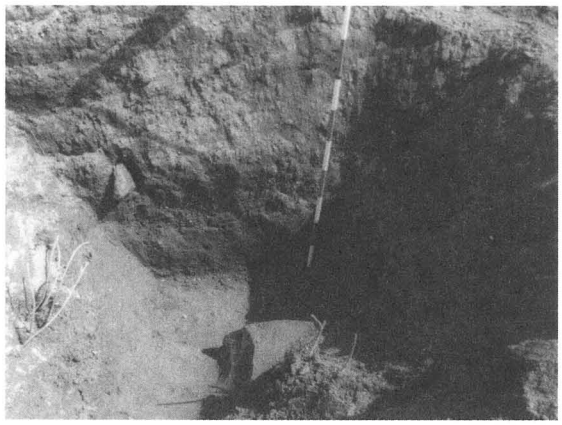
5　東郷2002-345　２区北壁

6　東郷2002-479　調査地周辺（北西から）

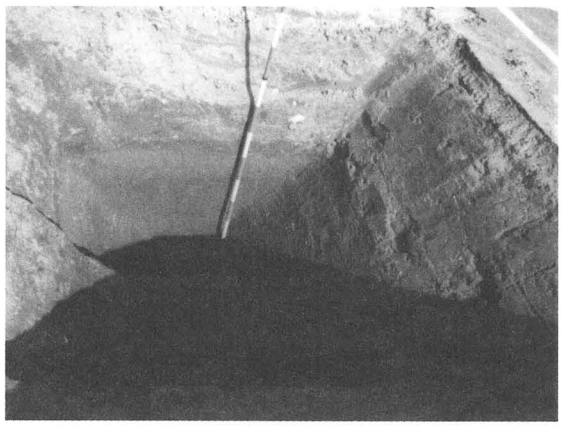


6　東郷2002-479　調査地周辺（南西から）

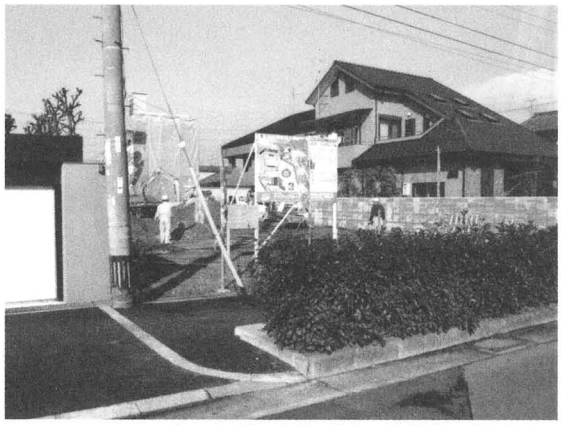
図版3　東郷遺跡（2002―479）の調査　中田遺跡（2002―428）の調査　美園遺跡（2002―424）の調査　跡部（2002―496）の調査



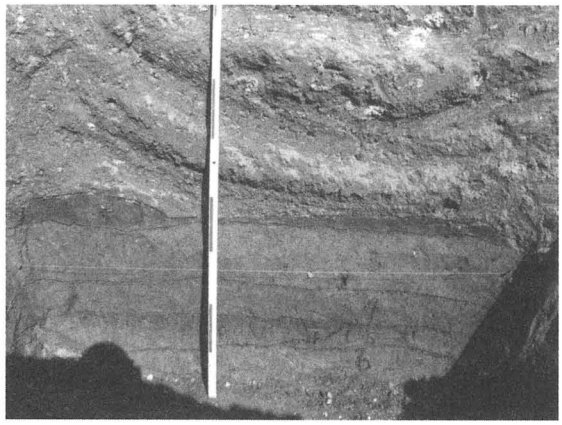
6　東郷2002-479　第１区全景（西から）



6　東郷2002-479　第２区全景（北から）

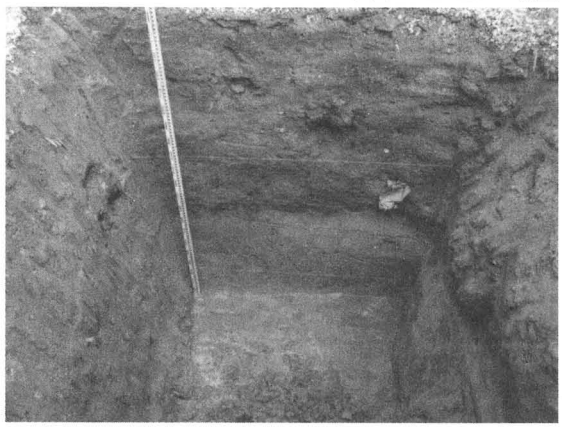


7　中田2002-428　調査地周辺（東から）

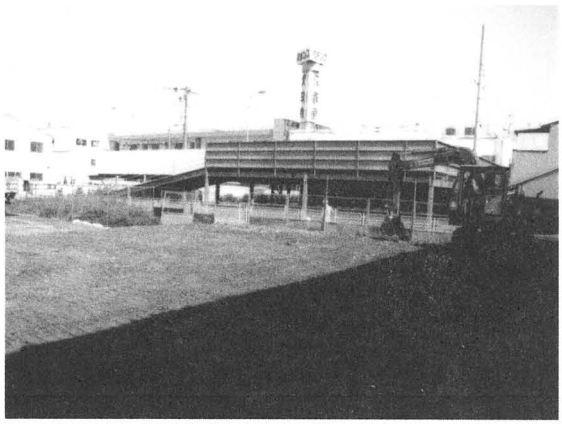


7　中田2002-428　北壁

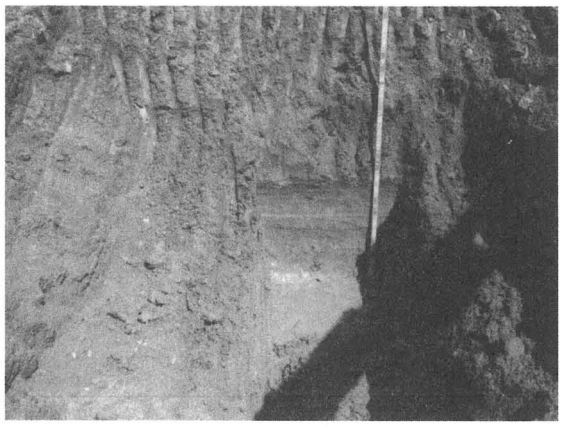
8　美園2002-424　調査地周辺（北東から）



8　美園2002-424　北壁

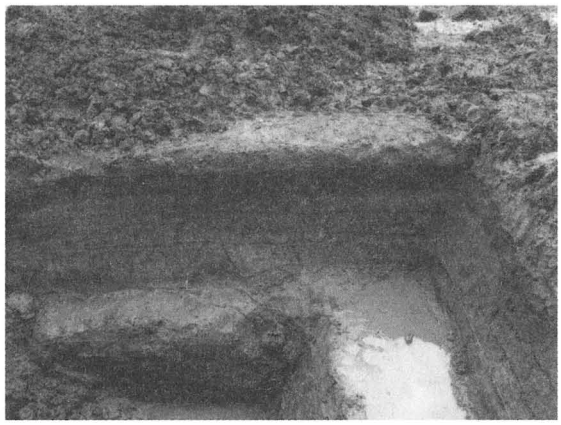


9　跡部2002-496　調査地周辺（南東から）

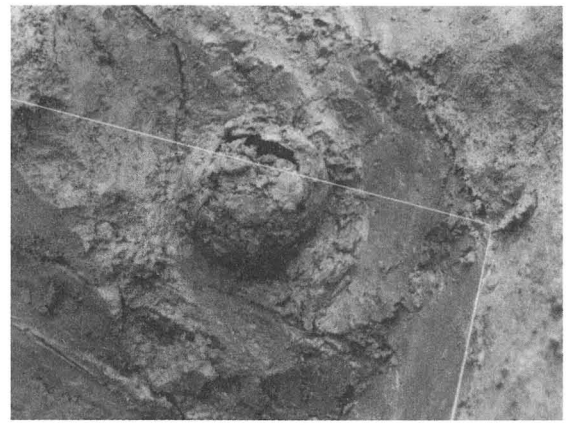


9　跡部2002-496　北区北壁

図版4　跡部遺跡（2003―128）の調査　跡部遺跡（2003―201）の調査　植松遺跡（2003―145）の調査

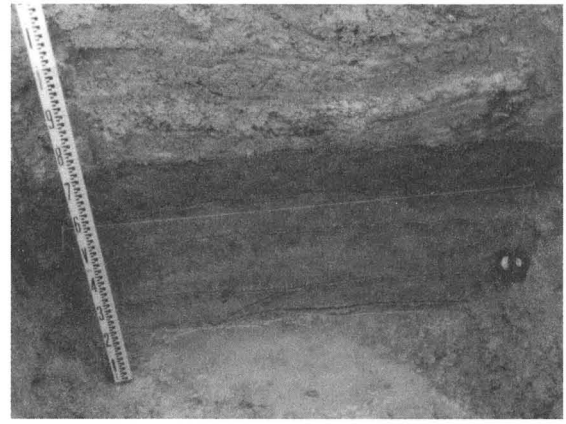


10 跡部2003-128　２区西壁



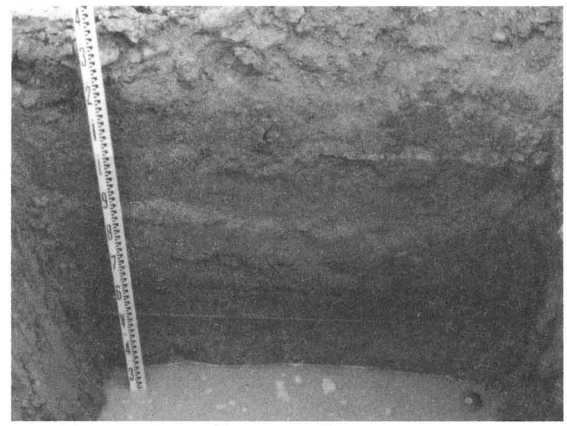
10 跡部2003-128　２区古墳時代中期の遺物（東から）

11 跡部2003-201　調査地周辺（南西から）

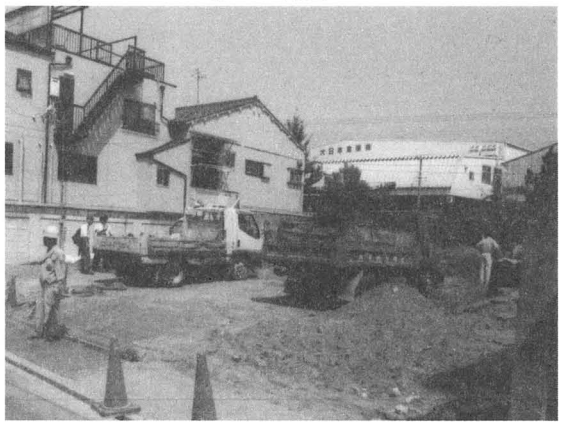


11 跡部2003-201　第１区西壁

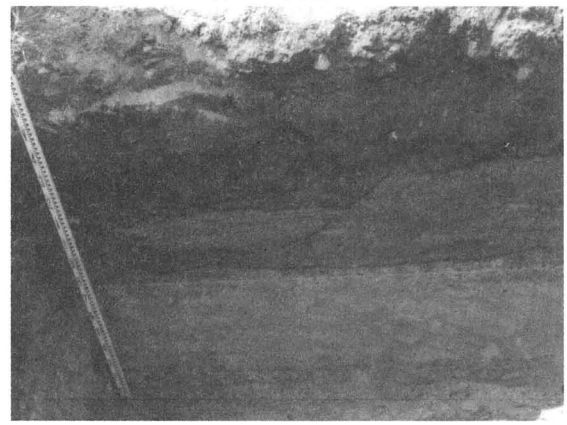
11 跡部2003-201　第２区南壁



11 跡部2003-201　第３区西壁



12 植松2003-145　調査地周辺（南東から）

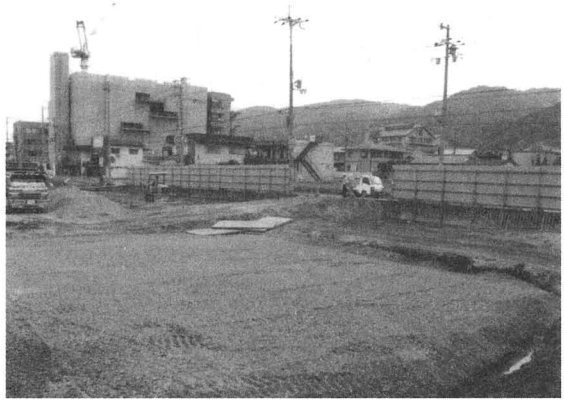


11 植松2003-145　第２区南壁

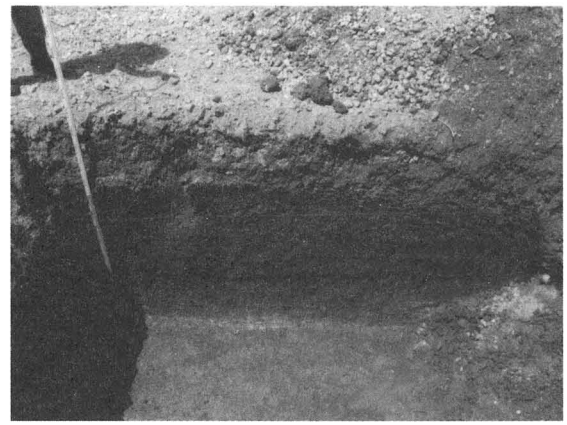
図版5　太田遺跡（2003―277）の調査　大竹西遺跡（2003―41）の調査　亀井遺跡（2003―178）の調査

13 太田2003-277　調査地周辺（南西から）

13 太田2003-277　第1区西壁



14 大竹西2003-41　調査地周辺（南西から）

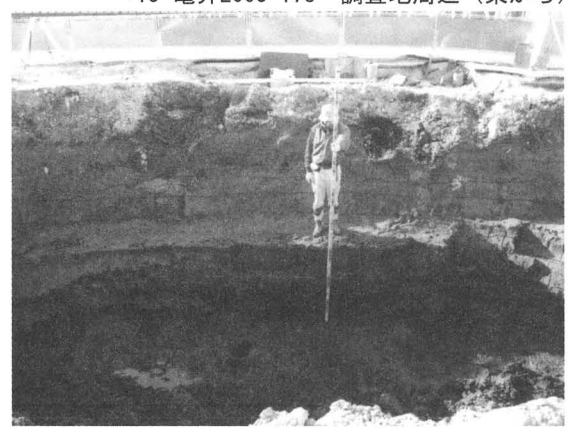


14 大竹西2003-41　西壁

15 亀井2003-178　調査地周辺（南東から）

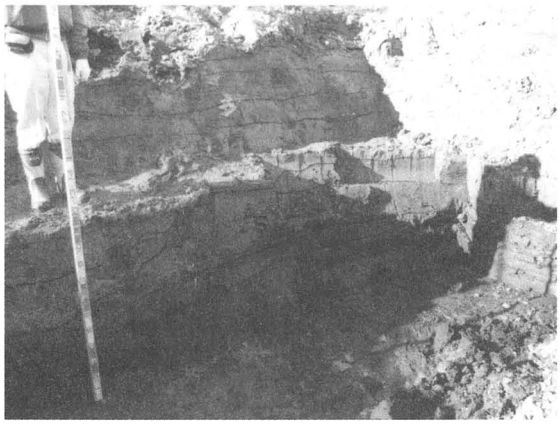
15 亀井2003-178　調査地周辺（東から）

15 亀井2003-178　調査区西壁

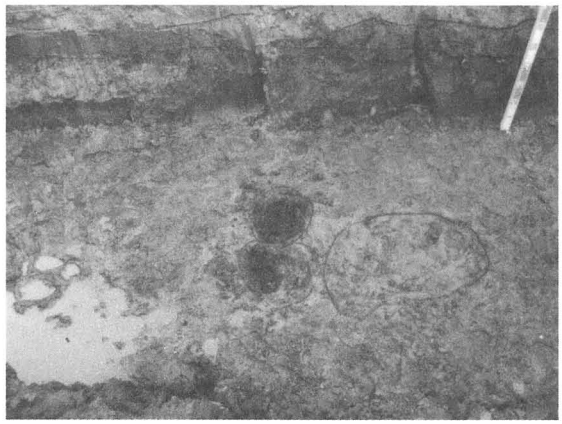


15 亀井2003-178　調査区全景（東から）

図版6　亀井遺跡（2003―178）の調査　木の本遺跡（2003―131）の調査　久宝寺遺跡（2003―34）の調査

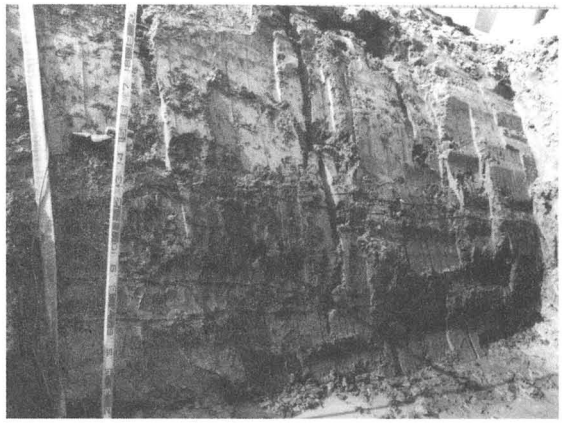


15 亀井2003-178　西壁



15 亀井2003-178　遺構検出状況（東から）

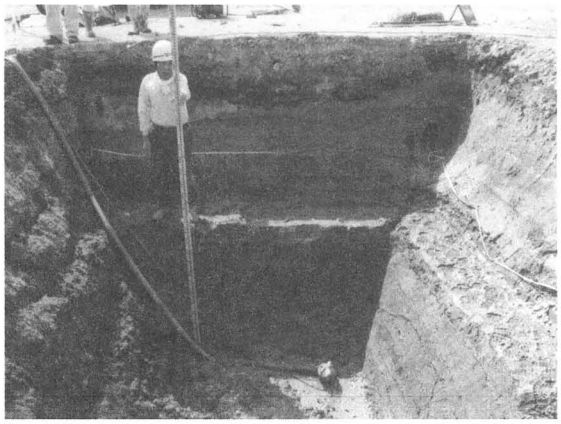
15 亀井2003-178　第２面全景（東から）



15 亀井2003-178　西壁下層断面（南東から）

16 木の本2003-131　調査地周辺（北東から）

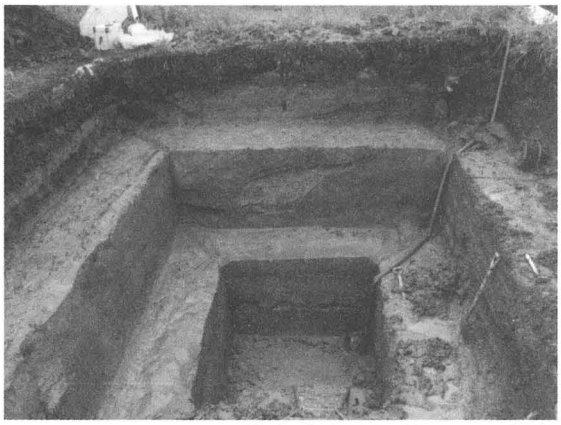
16 木の本2003-131　第３区全景（東から）



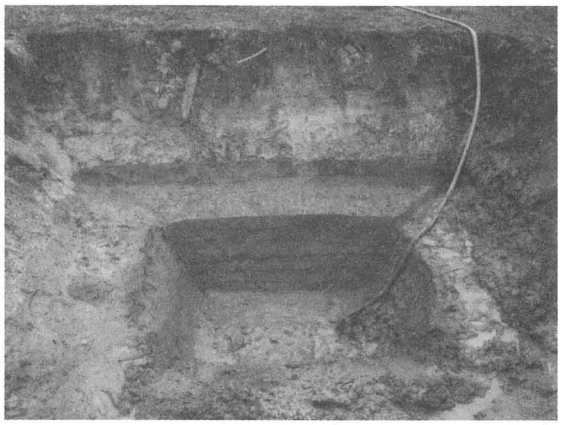
17 久宝寺2003-34　１区西壁

17 久宝寺2003-34　３区北壁

図版7　久宝寺遺跡（2003―34）の調査　久宝寺遺跡（2003―305）の調査　郡川遺跡（2003―304）の調査　郡川遺跡（2003―219）の調査

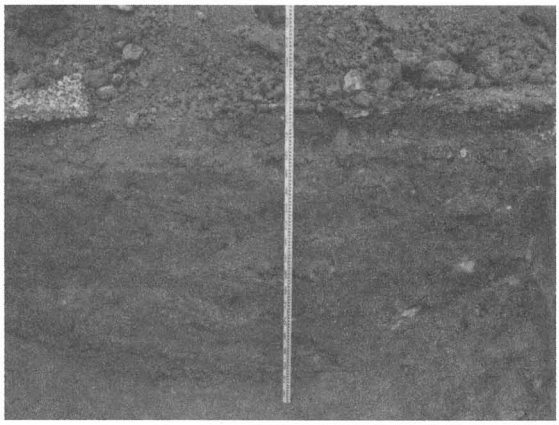


17 久宝寺2003-34　５区北壁



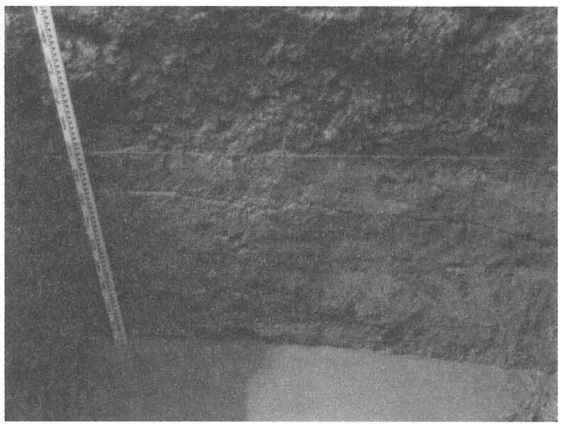
17 久宝寺2003-34　６区北壁

18 久宝寺2003-305　西壁



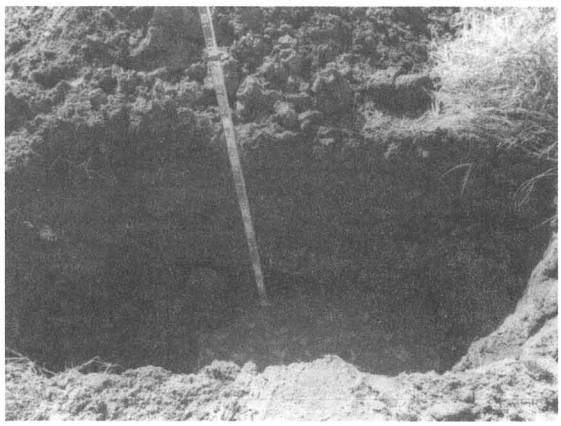
18 久宝寺2003-305　西壁

19 郡川2002-304　調査地周辺（南西から）



19 郡川2002-304　第２区西壁

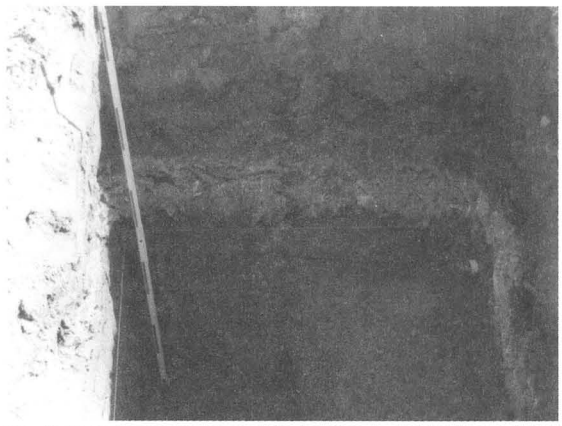
20 郡川2003-219　調査地周辺（北から）



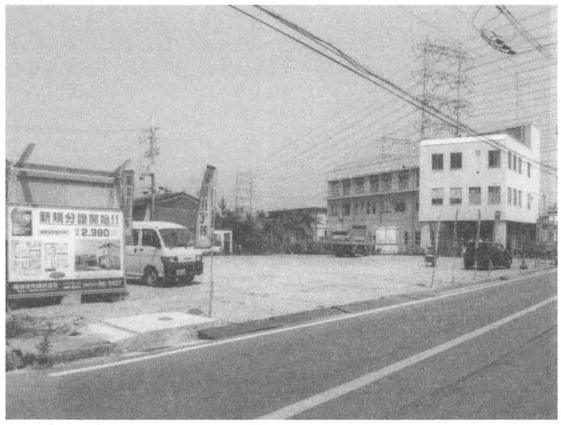
20 郡川2003-219　第１区全景（北から）

図版8　佐堂遺跡（2003―291）の調査　太子堂遺跡（2003―72）の調査　田井中遺跡（2003―224）の調査

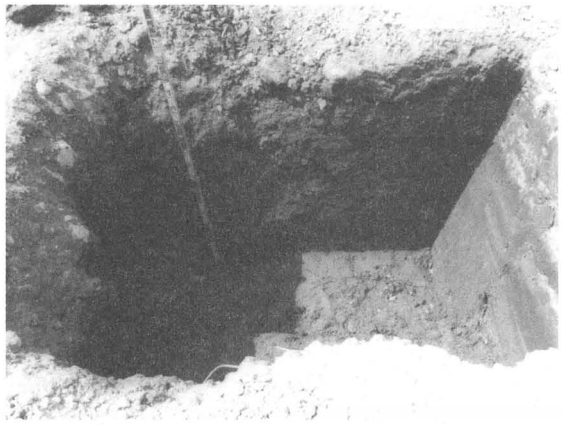
21 佐堂2003-291　調査地周辺（北西から）



21 佐堂2003-291　全景（西から）



22 太子堂2003-72　調査地周辺（南東から）



22 太子堂2003-72　第４区全景（北から）

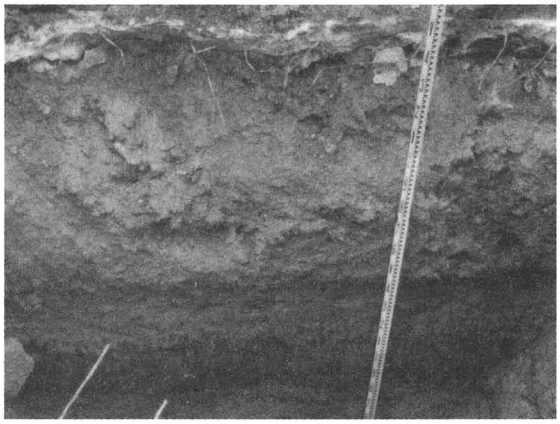
22 太子堂2003-72　第４区遺構検出状況（北から）

22 太子堂2003-72　瓦器椀出土状況（北から）

23 田井中　2003-224　調査地周辺（南東から）

23 田井中2003-224　第３区東壁

図版9　東郷遺跡（2003―50）の調査　東郷遺跡（2003―40）の調査



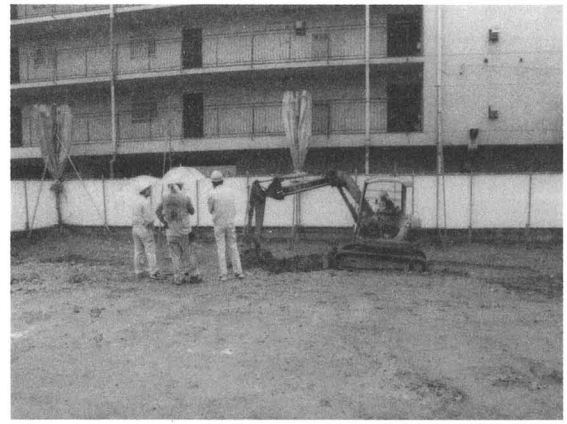
24 東郷2003-50　第１区北壁

24 東郷2003-50　第２区南壁

24 東郷2003-50　機械掘削状況（南東から）

24 東郷2003-50　調査地周辺（東から）

25 東郷2003-40　調査地周辺（南西から）



25 東郷2003-40　調査状況（西から）

25 東郷2003-40　第１区全景（南から）

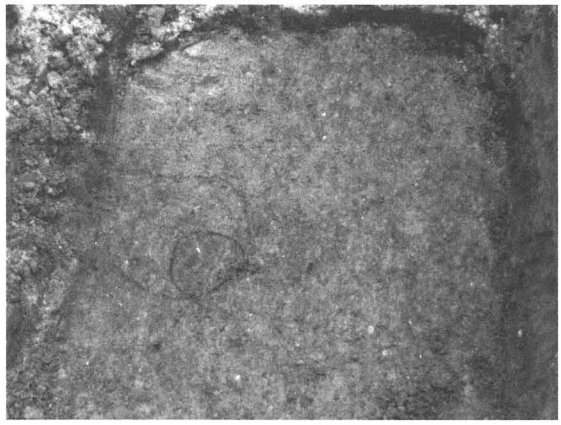
25 東郷2003-40　第２区全景（東から）

図版10　東郷遺跡（2003―234）の調査　中田遺跡（2003―315）の調査　中田遺跡（2003―203）の調査　中田遺跡（2003―261）の調査

26 東郷2003-234　調査地周辺（北東から）

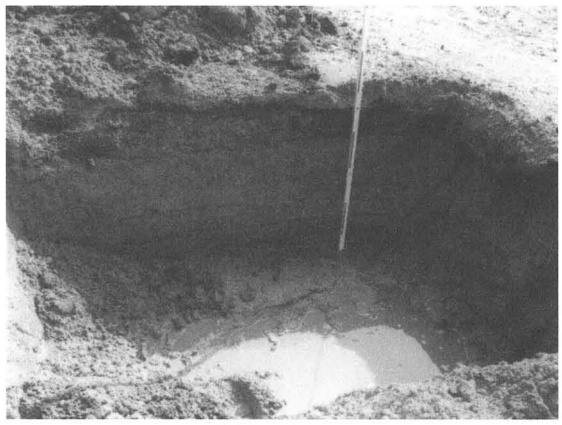
26 東郷2003-234　全景（北から）

27 東郷2003-315　第１区北壁



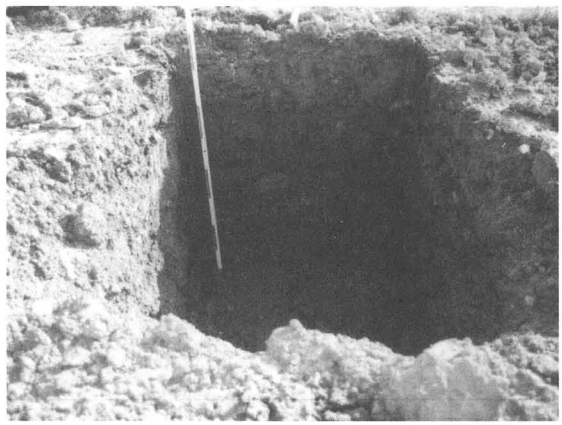
27 東郷203-203　全景（北から）

28 中田2003-203　調査地周辺（北から）



28 中田2003-203　全景（北から）

29 中田2003-261　調査地周辺（北東から）

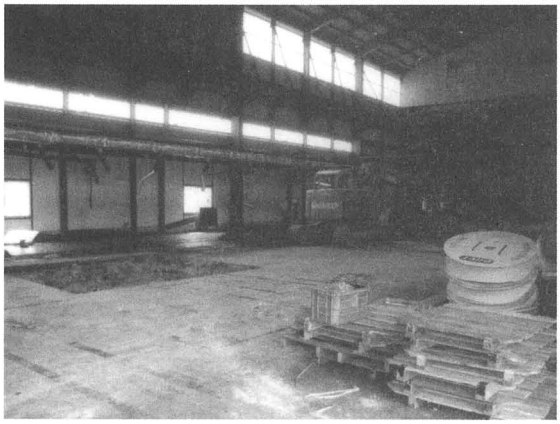


29 中田2003-261　全景（西から）

図版11　西郡廃寺遺跡（2003―89）の調査　西郡廃寺遺跡（2002―367）の調査　東弓削遺跡（2003―127）の調査

30 西郡廃寺2003-89　調査地周辺（南から）

30 西郡廃寺2003-89　第１区全景（南から）



31 西郡廃寺2003-367　機械掘削状況（北西から）

31 西郡廃寺2003-367　全景（北から）

31 西郡廃寺2003-367　第２区全景（南から）

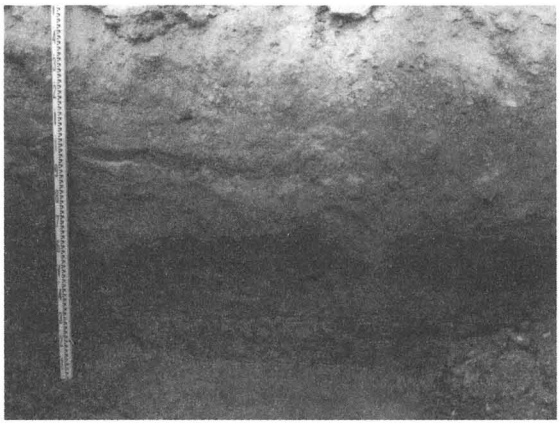
31 西郡廃寺2003-367　遺構検出状況（東から）

32 東弓削2003-127　調査地周辺（南西から）

32 東弓削2003-127　北壁

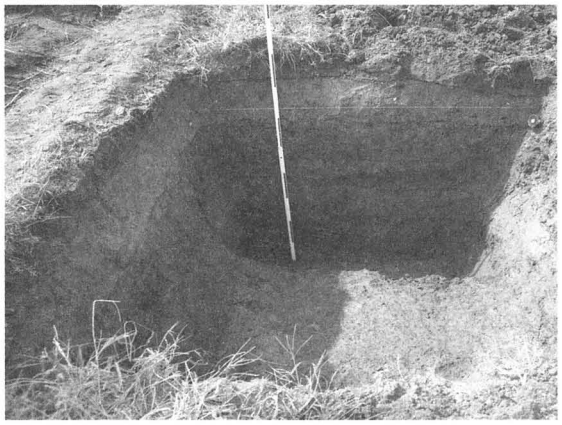
図版12　東弓削遺跡（2003―150）の調査　東弓削遺跡（2003―239）の調査　水越遺跡（2003―343）の調査

33 東弓削2002-150　調査地周辺（北から）

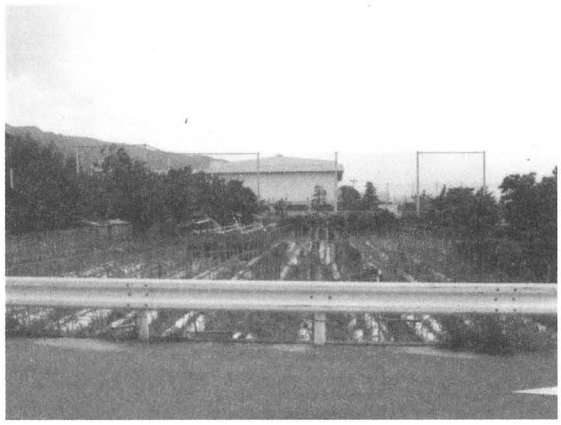


33 東弓削2003-150　第１区北壁

34 東弓削2003-239　調査地周辺（南西から）

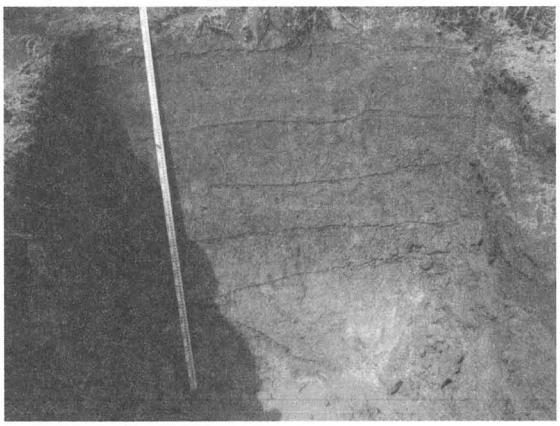


34 東弓削2003-239　全景（西から）

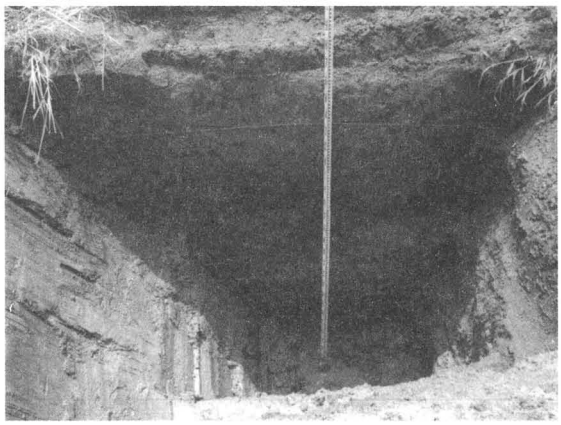


35 水越2002-343　調査地周辺（南から）

35 水越2002-343　第１区東壁



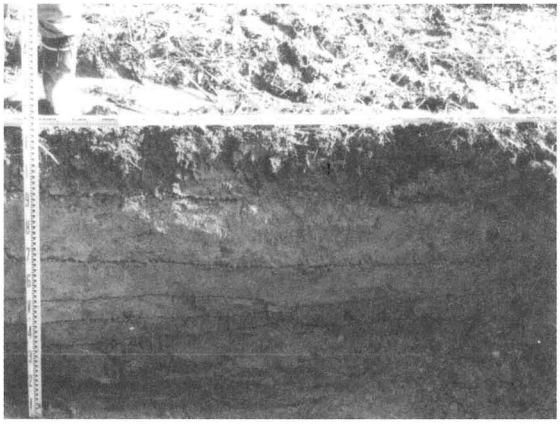
35 水越2002-343　第２区北壁



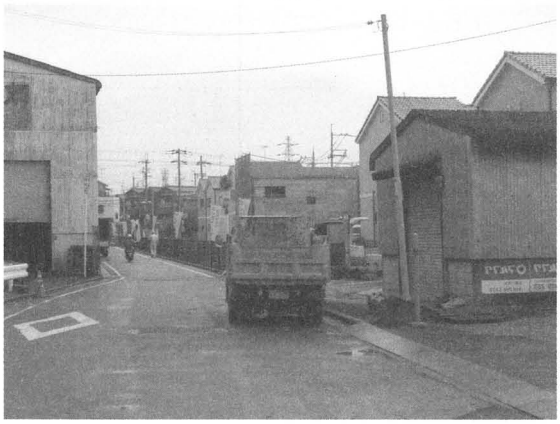
35 水越2002-343　第４区南壁

図版13　水越遺跡（2003－233）の調査　矢作遺跡（2003－270）の調査　弓削遺跡（2003－195）の調査

36 水越2003-233　調査地周辺（南西から）

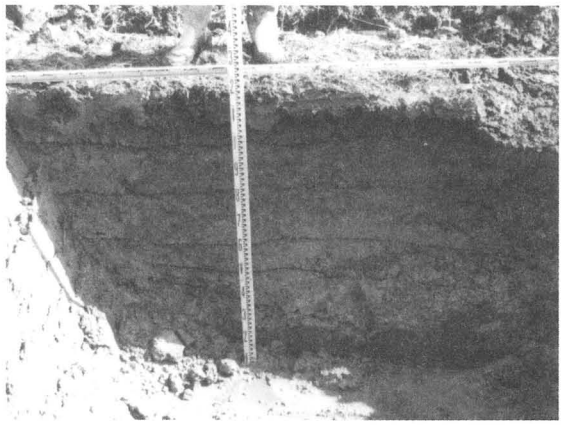


36 水越2003-233　第２区東壁



37 矢作2003-270　調査地周辺（北西から）

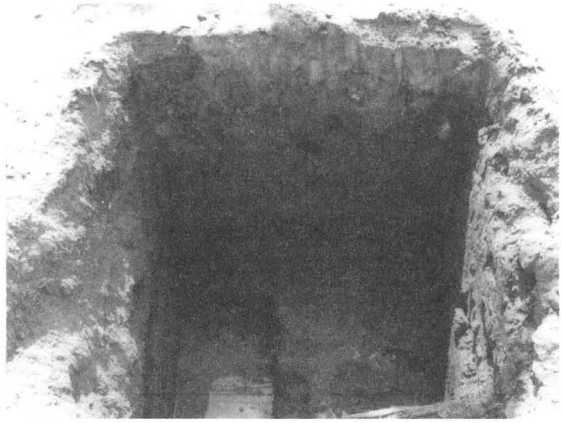
38 弓削2003-195　調査地周辺（北西から）



36 水越2003-233　第１区東壁

36 水越2003-233　第３区北壁

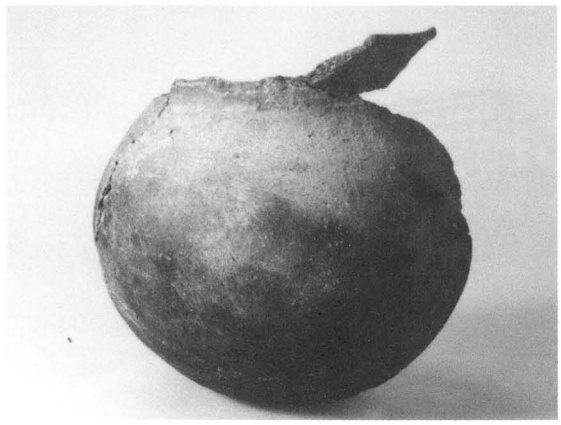
37 矢作2003-270　第１区全景（東から）



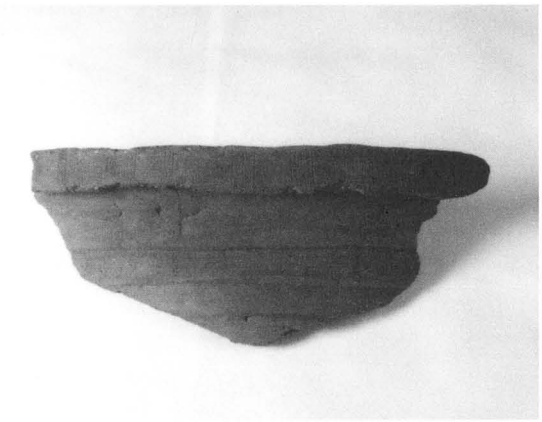
38 弓削2003-195　第２区全景（北から）

図版14　東郷遺跡（2002―426）の調査　跡部遺跡（2003―128）の調査　亀井遺跡（2003―178）の調査

4　東郷遺跡2003-426　出土遺物（２）



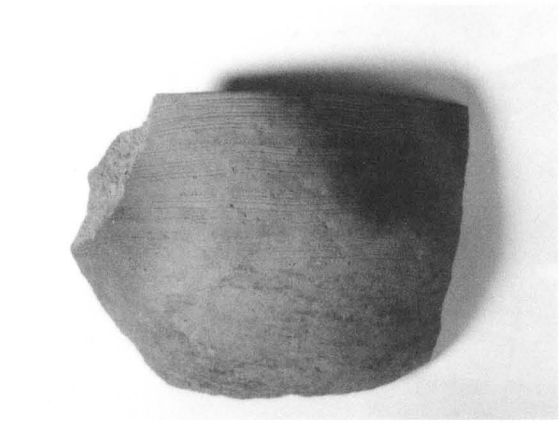
10　跡部遺跡2003-128　出土遺物



15　亀井遺跡2003-178　出土遺物（７）

15　亀井遺跡2003-178　出土遺物（８）

15　亀井遺跡2003-178　出土遺物（９）



15　亀井遺跡2003-178　出土遺物（19）

報告書抄録

ふりがな	やおしないいせきへいせい15ねんどはっくつちょうさほうこくしょ
書名	八尾市内遺跡平成15年度発掘調査報告書
副書名	平成15年度国庫補助事業
巻次	
シリーズ名	八尾市文化財調査報告
シリーズ番号	49
編著者名	岡田清一　高萩千秋　成海佳子　西村公助　樋口　薫　藤井淳弘
編集機関	八尾市教育委員会
所在地	〒581－0003　大阪府八尾市本町1丁目1番1号　☎0729－24－8555
発行年月日	西暦2004年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 (m²)	調査原因
老原遺跡	八尾市老原3丁目12番1の一部	27212	38	34 36 19	135 36 17	20030218	8	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
佐堂遺跡	八尾市佐堂町3丁目62の一部	27212	33	34 37 52	135 35 39	20030225	8	共同住宅建設に伴う遺構確認調査
成法寺遺跡	八尾市南本町2丁目30番3の一部、30番25の一部、36番2、37番1、37番2	27212	73	34 37 15	135 36 30	20030129	8	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
東郷遺跡	八尾市桜ヶ丘3丁目132番地	27212	37	34 37 41	135 36 37	20030128	27	共同住宅建設に伴う遺構確認調査
東郷遺跡	八尾市桜ヶ丘1丁目48番2	27212	37	34 37 34	135 36 38	20030130	8	共同住宅建設に伴う遺構確認調査
東郷遺跡	八尾市桜ヶ丘3丁目84,87,88,100	27212	37	34 37 41	135 36 42	20030313	18	共同住宅建設に伴う遺構確認調査
中田遺跡	八尾市八尾木北2丁目109－2	27212	28	34 36 47	135 37 04	20030217	4	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
美園遺跡	八尾市美園町4丁目65-109、110	27212	34	34 38 13	135 35 41	20030212	4	兼用住宅建設に伴う遺構確認調査
跡部遺跡	八尾市跡部北の町2丁目47-1、47－2	27212	64	34 36 56	135 35 13	20030501	6.25	事務所付工場建設に伴う遺構確認調査
跡部遺跡	八尾市春日町1丁目51の一部、52の一部	27212	64	34 36 59	135 35 33	20030718	27	共同住宅建設に伴う遺構確認調査
跡部遺跡	八尾市跡部本町1丁目54·55-1・－4・－6·58－1・－3・－4及び53－2·55－2・－3・－5の一部	27212	64	34 36 52	135 35 10	20030910	6.75	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
植松遺跡	八尾市植松町3丁目7－6の一部	27212	63	34 36 49	135 36 01	20030916	8	兼用住宅建設に伴う遺構確認調査
太田遺跡	八尾市太田新町2丁目95番地	27212	68	34 35 28	135 35 36	20031204	2.25	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
大竹西遺跡	八尾市楽音寺1丁目140、141、142	27212	54	34 38 17	135 38 24	20030813	6	店舗建設に伴う遺構確認調査
亀井遺跡	八尾市南亀井町2丁目20,22,23,24番	27212	26	34 36 45	135 34 45	20031118・1209~10	40	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
木の本遺跡	八尾市南木の本5丁目62番1・2	27212	35	34 35 57	135 35 34	20030912	12	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
久宝寺遺跡	八尾市大字渋川	27212	23	34 37 01	135 35 29	20030509~19	63	共同住宅建設に伴う遺構確認調査
久宝寺遺跡	八尾市北久宝寺3丁目10番	27212	23	34 37 43	135 35 14	20031202	9	事務所建設に伴う遺構確認調査
郡川遺跡	八尾市郡川3丁目80、81	27212	60	34 37 08	135 38 16	20030926	12	特別養護老人ホーム建設に伴う遺構確認調査
郡川遺跡	八尾市教興寺1丁目38番地	27212	60	34 37 02	135 38 11	20031001	12	宅地造成に伴う遺構確認調査
佐堂遺跡	八尾市佐堂町2丁目16番3・17番3	27212	33	34 37 56	135 35 47	20031112	8	共同住宅建設に伴う遺構確認調査
太子堂遺跡	八尾市南太子堂4丁目81番及び80番2の一部	27212	62	34 36 24	135 35 22	20030605	16	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
田井中遺跡	八尾市田井中2丁目48番1	27212	69	34 35 56	135 36 24	20031014	12	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
東郷遺跡	八尾市光町2丁目39	27212	37	34 37 36	135 36 35	20030514	12.5	共同住宅建設に伴う遺構確認調査
東郷遺跡	八尾市光町2丁目16,17	27212	37	34 37 37	135 36 29	20030616	12.5	共同住宅建設に伴う遺構確認調査
東郷遺跡	八尾市東本町4丁目15－8	27212	37	34 37 28	135 36 29	20031028	6.25	個人住宅建設に伴う遺構確認調査
東郷遺跡	八尾市桜ヶ丘1丁目25番	27212	37	34 37 39	135 36 37	20031201	12	共同住宅建設に伴う遺構確認調査
中田遺跡	八尾市中田2丁目43－1	27212	28	34 36 58	135 37 21	20031023	2.25	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
中田遺跡	八尾市中田2丁目12番2	27212	28	34 36 47	135 36 59	20031205	3	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
西郡廃寺遺跡	八尾市泉町1丁目2、2－2、2－3	27212	46	34 38 47	135 36 31	20030618	8	痴呆性高齢者グループホーム建設に伴う遺構確認調査
西郡廃寺遺跡	八尾市幸町6丁目21－3、24－1、24－4、31－4、31－5、31－10、33－1、33－2、33－3、34－3、36－1、36－2、37	27212	46	34 38 35	135 36 29	20030806	18	老人福祉施設増築に伴う遺構確認調査
東弓削遺跡	八尾市大字東弓削131番地1	27212	31	34 35 58	135 37 21	20030716	11.25	店舗建築に伴う遺構確認調査
東弓削遺跡	八尾市八尾木3－23・3－24・3－26	27212	31	34 36 11	135 37 16	20030904	8	保育園新築に伴う遺構確認調査
東弓削遺跡	八尾市都塚142－1番地	27212	31	34 36 06	135 37 26	20031010	4	通信用鉄塔建設に伴う遺構確認調査
水越遺跡	八尾市水越2－81、82	27212	42	34 37 51	135 38 31	20030811	25	知的・身体障害者授産施設建設に伴う遺構確認調査
水越遺跡	八尾市服部川3丁目9－2、10－3、10－4、164－3	27212	42	34 37 27	135 38 28	20031126	8	個人住宅建設に伴う遺構確認調査
矢作遺跡	八尾市高美町6丁目112番1	27212	74	34 37 15	135 36 30	20031121	16	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
弓削遺跡	八尾市志紀町南2丁目49	27212	71	34 35 38	135 37 09	20031024	8	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

	所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
1	老原遺跡	集落	－	－	－	
2	佐堂遺跡	集落	鎌倉時代	－	土師器・瓦器	
3	成法寺遺跡	集落	－	－	瓦器	
4	東郷遺跡	集落	古墳時代中期	土坑	土師器	
5	東郷遺跡	集落	－	溝	－	
6	東郷遺跡	集落	古墳時代中期～後期	土坑	須恵器・土師器	
7	中田遺跡	集落	古墳時代前期	土坑	古式土師器	
8	美園遺跡	集落	－	－	－	
9	跡部遺跡	集落	－	－	－	
10	跡部遺跡	集落	古墳時代前期・中期・奈良時代	溝・土坑・河川	土師器	
11	跡部遺跡	集落	－	－	－	
12	植松遺跡	集落	－	－	－	
13	太田遺跡	集落	－	－	土師器・陶磁器	
14	大竹西遺跡	集落	－	－	－	
15	亀井遺跡	集落	弥生時代中期・後期	溝・土坑	弥生土器・石器	
16	木の本遺跡	集落	－	－	－	
17	久宝寺遺跡	集落	古墳時代中期～近世	－	－	
18	久宝寺遺跡	集落	－	－	－	
19	郡川遺跡	集落	弥生時代後期	溝	弥生土器	
20	郡川遺跡	集落	－	－	－	
21	佐堂遺跡	集落	－	－	－	
22	太子堂遺跡	集落	鎌倉時代	土坑	瓦器・土師器・須恵器	
23	田井中遺跡	集落	－	－	－	
24	東郷遺跡	集落	古墳時代前期	－	－	
25	東郷遺跡	集落	古墳時代初頭～前期	土坑・溝	弥生土器・古式土師器	
26	東郷遺跡	集落	－	－	－	
27	東郷遺跡	集落	古墳時代前期	溝・柱穴	古式土師器	
28	中田遺跡	集落	－	－	－	
29	中田遺跡	集落	－	－	－	
30	西郡廃寺遺跡	集落	近世	溝	青磁	
31	西郡廃寺遺跡	集落	奈良時代～平安時代	土坑	瓦器	
32	東弓削遺跡	集落	鎌倉時代	畦畔	土師器	
33	東弓削遺跡	集落	飛鳥時代	－	土師器	
34	東弓削遺跡	集落	鎌倉時代	土坑	瓦器・土師器	
35	水越遺跡	集落	－	－	弥生土器	
36	水越遺跡	集落	－	－	－	
37	矢作遺跡	集落	－	－	－	
38	弓削遺跡	集落	平安時代	畦畔	瓦	

八尾市文化財調査報告49
平成15年度国庫補助事業

八尾市内遺跡平成15年度発掘調査報告書

発　行　日　2004年３月31日
編集・発行　八尾市教育委員会
〒581-0003　八尾市本町１－１－１
TEL(0729)24－８５５５（直通）
印　　刷　(株)近畿印刷センター

＜八尾市刊行物番号　H15－114＞